

第30回 2019年4月27日(土)、28日(日)、29日(月・祝) 東京国際コイン・コンヴェンション

30th TOKYO INTERNATIONAL COIN CONVENTION 2019. 4. 27 ~ 29
東京・日本橋 ロイヤルパークホテル 3階 **入場無料**



江戸の金遣い

特集

きんづか

徳川の
造った
金貨



期間中
無料鑑定・相談コーナーを設置



主催/日本貨幣商協同組合

お問い合わせ

東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル409
TEL.03-3508-1701 FAX.03-3593-1029

■ 日本貨幣商協同組合ホームページ www.jnda.or.jp

- 後援・出展／独立行政法人造幣局・独立行政法人国立印刷局
- 後援／外務省・文化庁・日本赤十字社・中央区・
カナダ大使館・フランス大使館・英国大使館 国際通商部
- 協賛／(株)ロイヤルパークホテル

T.I.C.C.
TOKYO INTERNATIONAL COIN CONVENTION



Trust Your Coins and Notes to the Experts



Coin authentication,
grading & encapsulation
NGCcoin.hk



Coin conservation services
NGCcoin.hk/NCS



Paper money authentication,
grading & encapsulation
PMGnotes.hk



For more information, contact our Hong Kong office:

+852 2115 3639 | Service@NGCcoin.hk

第 30 回東京国際コイン・コンヴェンション開催にあたって

Welcome to the 30th Tokyo International Coin Convention



平成 31 年 4 月
日本貨幣商協同組合
理事長 関 口 寧

April, 2019
Japan Numismatic Dealers Association
Chairman **Yasushi Sekiguchi**

我が国最大の貨幣イベント東京国際コイン・コンヴェンションは、今年大きな節目となる 30 回目の開催を迎える運びとなりました。これも数多くの収集家の皆様、関係各位の皆様のご協力の賜物と、30 年の歴史を刻む今年、改めて痛感しております。

今から 30 年前、日本橋三越で開催されていた「国際貨幣まつり」を引き継ぐ形で始まった「東京国際コイン・コンヴェンション」の第 1 回は舞浜の東京ベイ NK ホールで開催され、第 2 回目以降はここロイヤルパークホテルに場所を移し、30 年を迎える事が出来ました。運営面で厳しい時期もございましたが、その後に財務省放出の金貨の鑑定などを通じて社会的貢献が認められ、現在では各国造幣局、国内外ディーラーからも認められる国際的コインショーに成長したと自負しております。これからも皆様に喜んで頂けるコイン・コンヴェンションを、更に充実させながら継続してゆく事が我々の責務と思っております。

さて間近に天皇陛下の御退位、新天皇陛下の御即位という歴史的行事が差し迫っております。昭和、平成、そして新たな元号の時代、これからも私共日本貨幣商協同組合は貨幣収集の楽しさと正しい情報を広げていきたいと思っております。

今年のコンヴェンションのテーマは「江戸の金遣い〜徳川の造った金貨〜」です。

江戸時代から造られるようになった小判・分金などを中心に独立行政法人造幣局・造幣博物館所蔵品、更に全国の収集家の皆様の収集品による展示をご覧下さい。

平成最後のゴールデンウィークの 3 日間をごゆっくりとコイン三昧をお楽しみ下さい。

The Tokyo International Coin Convention, the largest coin convention in Japan, crosses a major milestone as this year marks the 30th anniversary. On this occasion, I appreciate the fruit of cooperation of a number of numismatic collectors and others involved in the last three decades.

Thirty years ago the first Tokyo International Coin Convention was held at the Tokyo Bay NK Hall in Maihama, taking over the "International Numismatic Festival" which had been held at Mitsukoshi Department Store in Nihombashi, Tokyo. From the 2nd convention onwards, we moved to the Royal Park Hotel and are now celebrating the 30th anniversary. We had a difficult time in terms of operation in the past. However, our social contribution has been recognized in various examples, including the appraisal of gold coins released by the Ministry of Finance. We are proud that the Coin Convention has grown into an international event recognized by international mints as well as domestic and foreign numismatic dealers. We believe that our responsibility is to continue the Coin Convention by enhancing the contents to make it more enjoyable for visitors.

The Emperor's abdication is a historic event and the accession of a new emperor is just around the corner. We, the Japan Numismatic Dealers Association, will continue to promote the fun of numismatic collecting and the disseminating of correct information in the coming new era as we did during the eras of Showa and Heisei.

The theme of this year's exhibition is "Golden money in Edo ~ gold coins made by the Tokugawa Shogunate ~". Please enjoy the exhibition of collections by the Japanese Mint and the National Printing Bureau, as well as the collections of numismatists from Japan. Specifically, collections focusing on *Koban*, an oval gold coin, and *ichibukin*, a small rectangular gold coin which were made during the Edo Period

Please enjoy three days of the last Golden Week in the Heisei Era at the Tokyo International Coin Convention.

"CHIVALRY" SILVER COIN

WHEN KNIGHTS WERE BOLD



AUSTRIAN
MINT

The medieval period may be notorious for being bloody and brutal, but it was also the age of chivalry – a combination of the warrior ethos, piety, nobility and gallantry. *Chivalry*, the first coin in our fascinating five-coin *Knights' Tales* series, is dedicated to these values.

Available at www.austrian-mint.com.

AUSTRIAN MINT – INVEST. COLLECT. GIVE.

オーストリア造幣局



コイン収集家の皆さまへ

「世界の縮図」

コインは何百年もの間、収集され、大切にされてきました。みなさまのこだわりのコインコレクションの一枚一枚は、世界の縮図を表す誰もが共感できる博物館と言えるのではないのでしょうか。その大変良い例がご愛顧頂いております当オーストリア造幣局が発行するコインのコレクションです。コインには多様なテーマ、デザインがあり、コインを通して世界探検ができるのです。自然、歴史、文化、技術・・・オーストリア造幣局のコインの宇宙は年を重ねるごとに広がり続けています。

歴史的なデザインを現代風にアレンジすることで、時代を超越し、タイムレスに感じるように工夫を凝らしています。わたしどもが目指すのはオーストリア造幣局発行のコインが安全かつ資産として保全できる製品であるとお客さまに信頼して頂くことです。同時に時代の息吹を、ユニークに、魅力的に製品設計に反映することです。コインのテーマの本質を見つめ、斬新かつお客様にご満足頂けるデザインに仕立てることにより、洗練されたものづくりへの挑戦を常に続けております。

博物館の役割は過去にあると思われがちですが、コインの愛好家の皆さまであれば、現代において歴史的とされていることがかつては最新鋭であり、今なお価値を持ち続けていることがおわかりになるでしょう。当オーストリア造幣局では、このサイクルをよく理解し、実践することを重要な課題と捉えています。そして真摯に、大いに楽しみながら取り組んでいます。今年の東京国際コイン・コンヴェンションはその成果を吟味していただける格好のチャンスです。是非ご来場いただきましてお客様ご自身の目でお確かめ下さい。

アンドレア・ラング

マーケティング・販売担当理事
オーストリア造幣局



Discover Monumental Stories in Miniature: The 2019 Annual Sets

.....

This year's Annual Sets contain a special collection of coins struck for 2019. Each coin delivers a monumental story in miniature, exemplifying The Royal Mint's world-renowned skill and precision.



royalmint.com

Treasure for Life®

COLLECTOR COINS



JEWELS OF NUMISMATICS *House of Hapsburg* 2019 IX

FELIPE IV

Metal: Gold 999
Diameter: 23 mm
Total Weight: 6,75 g
Quality: Proof
Facial Value: 100 Euro
Maximun Mintage: 2.000 units



CARLOS II

Metal: Gold 999
Diameter: 13,92 mm
Total Weight: 1,24 g
Quality: Proof
Facial Value: 20 Euro
Maximun Mintage: 5.000 units



FELIPE III

Metal: Silver 925
Diameter: 40 mm
Total Weight: 27 g
Quality: Proof
Facial Value: 10 Euro
Maximun Mintage: 5.000 units



Complete Collection





The Singapore Mint

www.singaporemint.com

YEAR OF THE BOAR COINS

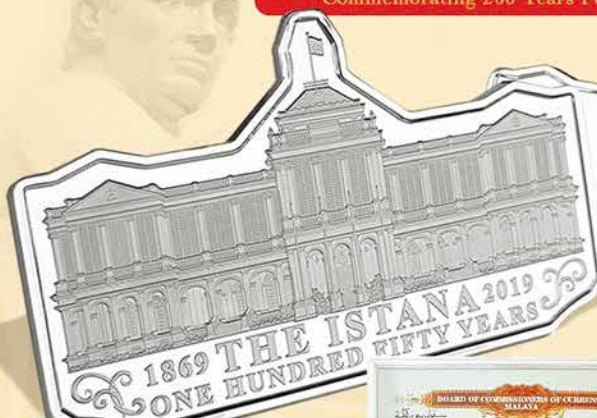


Happiest Lunar Coins
from Bhutan



Singapore Lunar Coins

SINGAPORE BICENTENNIAL Commemorating 200 Years Founding of Singapore



Consign now to a Künker Auction Sale!



Künker Auction Sale 312 – Mysia
Lampsakos. Stater, 367/344 B. C.
Estimate: 12,500 euros. Hammer price: 38,000 euro.



Künker Auction Sale 315 – Transylvania
Gabriel Bethlen, 1613-1629. 10 Ducats 1616.
Estimate: 25,000 euros. Hammer price: 75,000 euros.



Künker Auction Sale 315 – Bavaria
Karl Albert, 1726-1745. 20 Ducats 1739, Munich.
Estimate: 50,000 euros. Hammer price: 200,000 euros.



Künker Auction Sale 314 – Saxony
Xaver, 1763-1768. Double Taler 1766, Dresden.
Estimate: 10,000 euros. Hammer price: 75,000 euros.



Have you inherited a collection and wish to sell your coins? We would be happy to provide information about consigning your coins to one of our auctions. We uphold the highest standard of research and presentation in our catalogues. You may rest assured that your material will be showcased in a professional and attractive format to thousands of customers throughout the world.

The Künker Guarantee: When you purchase a coin, medal, medal of honor or other item, you can be sure: all the pieces correspond to their description, and we guarantee the authenticity up to the amount of the purchase price without a time limitation!

您继承了一批收藏品，并希望出售其中的硬币？我们的任何一家拍卖行都很乐意为您提供委托拍卖信息。

我们的目录体现了研究和推广的最高标准，可以确保您的物品会以专业的、醒目的方式向世界各地成千上万的客户展示。

Künker 保证：如果您购买一枚硬币、奖章、荣誉奖章或其他物品，您尽可以放心：所有的物品与其商品描述完全相符，我们保证其真实性以及采购价格无时间限制！



Petr Kovaljov · petr.kovaljov@kuenker.de · Call +420 603 811 031 · www.kuenker.de

Fritz Rudolf Künker GmbH & Co. KG · Nobbenburger Strasse 4a · 49076 Osnabrück · Germany

PCGS TrueView サービス



TrueView サービスはお客様の貨幣に高解像度のデジタル写真を提供できます

PCGS ホンコンオフィス

所在地
香港九龍尖沙咀閣東道33番地中港城3座
11層11A - 14室



連絡先:
電話番号: +852 2194 6688
携帯電話: +852 6933 7411 (WhatsApp, LINE, WeChat)
メールアドレス: info@PCGSasia.com
ウェブサイト: www.PCGSasia.com

造幣博物館特別展

皇室関係 記念貨幣・メダル展

～ 天皇陛下御在位三十年 及び 皇太子殿下の御即位記念 ～

開催期間 2019年3月21日(木・祝)～6月30日(日)

開催期間中の土曜・日曜・祝日も開館しております。

なお、毎月第3水曜日は休館とさせていただきます。

ゴールデンウィーク期間中の4月30日(火)・5月1日(水)・2日(木)も
休館となります。

開館時間 9:00～16:45(入館は16時まで)



入館無料

造幣博物館

06-6351-8509(直通)

ICDC2018メダル

造幣局が主催する国際コイン・デザイン・コンペティション(ICDC)2018の
最優秀賞を銀メダルに仕上げました。



タイトル:「200th ANNIVERSARY OF THE BIRTH OF STANISLAW MONIUSZKO
1819-1872」(スタンisワフ・モニューシュコ生誕200周年)

作者: Paulina Kotowicz & Robert Kotowicz (ポーランド)

販売予定価格 4,000円(消費税込)

※金メダルの通信販売も予定しております。

販売要領は、後日造幣局ホームページ等でお知らせいたします。

第30回東京国際コイン・コンヴェンション貨幣セット



販売価格1,900円(消費税込)

会場にて販売予定

販売に関するお問合せ先 お客様サービスセンター

〒530-0043 大阪市北区天満1-1-79

☎0570-01-2626(ナビダイヤル)

(平日9:00-17:00)

(ナビダイヤルを利用できない場合 06-6351-2626)

独立行政法人 造幣局

<https://www.mint.go.jp/>



独立行政法人

国立印刷局

第30回TICC

特別展示

「さまざまな肖像のお札とその変遷」

お札の重要な要素である肖像。日本では、肖像の人物がお札の代名詞となるほど、事実上「お札の顔」となっていますが、これまでに様々な「顔」が登場しました。一方で、世界のお札に目を転じると、日本とは異なる「顔」を発見できます。

ここでは、日本と世界のお札の肖像を対比しながらその変遷をたどります。

あわせて「顔」のないお札など時代や社会背景によって、様々に変化する「顔」をご覧ください。



日本で初めて肖像が採用されたお札
改造紙幣 10円 明治16(1883)年



動物が肖像のお札
南アフリカ 50ランド 2005年



肖像のないお札
レバノン 10000ポンド 1998年

ちょっと足を延ばして お札と切手の博物館

春の
イベント

凹版印刷体験

(無料)

2019年 4月27日(土)

— 5月6日(月)

凹版印刷は、お札に使われている印刷技術です。

お札と切手の博物館でも、凹版印刷体験イベントを行います。

お札の独特の風合いがどのように生み出されるのか、実際に体験してみませんか。

所要時間：約20分

体験時間：10:00～12:30、13:30～16:20

混雑状況によっては早めに受付を終了する場合があります



〒114-0002 東京都北区王子 1-6-1

TEL 03-5390-5194 (団体の場合は、あらかじめご連絡ください)

開館時間 9:30～17:00

休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)

アクセス JR京浜東北線 王子駅下車(中央口) 徒歩3分

東京メトロ南北線 王子駅下車(1番出口) 徒歩3分

都電荒川線(東京さくらトラム) 王子駅前下車 徒歩3分

* 駐車場はありません

<http://www.npb.go.jp/ja/museum/>

お札と切手の博物館 検索

お札と切手の博物館

Banknote and Postage Stamp Museum

国立印刷局製造 “スーベニアカード” 好評頒布!

Official Souvenir Card for the 30th Tokyo International Coin Convention is available at Insatsu Choyokai Foundation.

今回、第30回記念カードを頒布していますが、過去に発行した記念カードも在庫がありますのでお求めください。

ただし、第1回及び第2回は発行していません。また、第3回、第6回から第9回までの記念カードは完売しました。



凹版印刷を体験しませんか!

あなただけの作品を
来場の記念品にしましょう。

凹版体験風景

この体験は、紙幣の印刷に使われる版面と同じような画線が彫刻された深凹版印刷用の金属の版面を使用して、その画線にインキをつめ、余分なインキをふき取り、会場の印刷機で実際に印刷を行っていただきます。最後にインキを乾かせば、紙の表面に盛り上がった線画がご覧になれます。ぜひ、ご体験ください。



① 錦帯橋



② 旧古河庭園洋館



③ ジャイアントパンダ



今回は、山口県岩国市の錦川の清流に架かる木造づくりの「錦帯橋」です。川幅約200mに全長193.3m・幅5mで五連のアーチ型の橋が特徴です。日本三大橋のひとつで国の名勝にも指定されており俗に「眼鏡橋」とも言われています。その他の版は、東京都北区にあるバラの名所として親しまれている旧古河庭園の「旧古河庭園洋館」とジャイアントパンダを選びました。来場者の皆さん、凹版印刷を堪能してください。

① 錦帯橋

② 旧古河庭園洋館

③ ジャイアントパンダ

乞うご期待ください。

※今年の図書カードは、「図書カードNEXT」を使用しております
のでご理解ください。

一般財団法人 印刷朝陽会

Insatsu Choyokai Foundation

〒114-0016

東京都北区上中里2-30-2

Tel 03(3927)8796

Fax 03(3927)8798

<http://www.choyokai.or.jp/>

目次

大会委員長挨拶	3
会場案内	14
スケジュール	15
ブース案内図	16
参加社名	17
展示品・企画品	18
特別販売品	19
チャリティー	20
特別講演・セミナー	21
江戸の金遣い	岩橋 勝 … 22
我が国の紙幣印刷近代化に貢献した人々	植村 峻 … 30

コンヴェンション会場と交通機関

TICC

会場

ロイヤルパークホテル ROYAL PARK HOTEL

3F ロイヤルホール
Royal Hall 3rd Floor
〒103-8520 東京都中央区日本橋蛸殻町2-1-1 TEL 03-3667-1111



今回も昨年と同じく、東京の中心部日本橋・蛸殻町にあるロイヤルパークホテルにて開催されます。国際ホテルとして高いグレードを誇るロイヤルパークホテルの3階「ロイヤルホール」と「ホワイエ」にて造幣局・国立印刷局をはじめ、海外の造幣局の展示や、国内・海外の参加業者の展示即売会が繰りひろげられます。

歴史的にもこの蛸殻町は、徳川幕府が享和元年（1801年）銀貨鑄造所を銀座2丁目から蛸殻町に移転させ、明治2年に造幣局ができるまでの68年間、銀貨の鑄造を行ったゆかりの地でもあります。

- 東京駅より2km（車で10分）。
- 地下鉄半蔵門線、東武伊勢崎線「水天宮前駅」に直結。
- 地下鉄日比谷線、都営浅草線「人形町駅」より徒歩5分。
- 東京シティー・エアターミナルに隣接。
- 車で成田空港へ60分、羽田空港へ30分。

《実行委員スタッフ》

●大会委員長

関口 寧 Yasushi Sekiguchi

●実行委員長

石井 克之助 Katsunosuke Ishii

●実行委員（順不同）

林 和実 Kazumi Hayashi

高馬 大三 Daizo Koma

寺田 実 Minoru Terada

竹内 潤 Jun Takeuchi

矢澤 幸一郎 Kouichiro Yazawa

屋代 拓己 Hiroki Yashiro

The 30th TOKYO INTERNATIONAL COIN CONVENTION

コイン・コンヴェンションとイベントの日程 ロイヤルパークホテル3階
(ロイヤルホール)

4月27日(土)

10:00	開会式	Opening Ceremony	
10:30	一般開場	Exhibit Area opens to Public	
10:30~	クラウンルームAB ミントセット販売	Mint sets sale to Public	Crown room AB
10:00~18:00	4F 琥珀 泰星オークション 下見		4F Kohaku
13:00~18:00	チャリティーくじ		
14:00~15:30	クラウンルームB 講演(岩橋 勝先生)	Lecture(Dr.Iwahashi)	Crown room B
16:00~17:30	クラウンルームB セミナー(日本貨幣協会)	Seminar	Crown room B
18:00	閉 場	Exhibit Area closes	

4月28日(日)

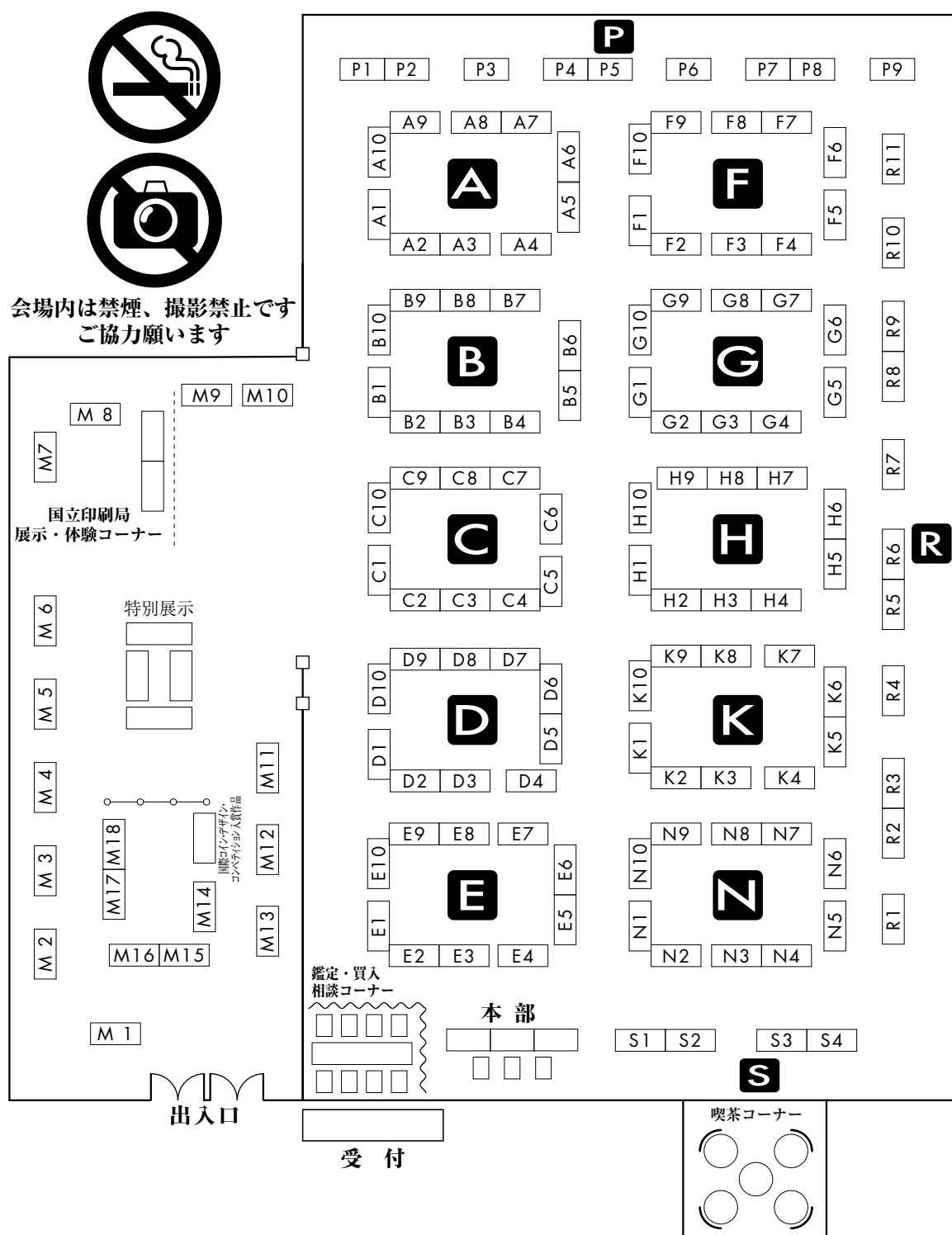
10:00	一般開場	Exhibit Area opens to Public	
10:00~	クラウンルームA ミントセット販売	Mint sets sale to Public	Crown room A
9:00~14:00	4F 琥珀 泰星オークション 下見		4F Kohaku
10:00~18:00	予定 4F 瑠璃 泰星オークション	Taisei Auction	4F Ruri
11:00~	クラウンルームB 日本赤十字社 世界のコイン配布(チャリティー)		Crown room B
10:00~18:00	こどもスタンプラリー		
12:00~17:00	チャリティーくじ		
14:00~15:30	クラウンルームB 講演(植村 峻氏)	Lecture(Mr.Uemura)	Crown room B
15:30~	ホワイエ前 植村 峻先生 出版記念サイン会		
16:00~17:30	クラウンルームB セミナー(外国コイン研究会)	Seminar	Crown room B
18:00	閉 場	Exhibit Area closes	

4月29日(月・祝)

10:00	一般開場	Exhibit Area opens to Public	
10:00~	クラウンルームA ミントセット販売	Mint sets sale to Public	Crown room A
10:00~16:00	こどもスタンプラリー		
11:00~	クラウンルームB 日本赤十字社 世界のコイン配布(チャリティー)		Crown room B
12:00~16:00	チャリティーくじ		
14:00~15:30	クラウンルームB セミナー(日本近代銀貨研究会)	Seminar	Crown room B
17:00	閉 場	Exhibit Area closes	

第30回東京国際コイン・コンヴェンション

出展業者のブース案内図／EXHIBIT AREA INFORMATION



第30回東京国際コイン・コンヴェンション 参加社名 TICC

◎造幣局関係

独立行政法人 造幣局	Japan Mint	M14 ~ 16
独立行政法人 国立印刷局	National Printing Bureau, Japan	M 7・8
英国王立造幣局	The Royal Mint	M 11
カナダ王室造幣局	Royal Canadian Mint	M 4
フランス国立造幣局	Monnaie De Paris	M 2
中国金幣総公司	China Gold Coin Inc	M 3
王立スペイン造幣局	Royal Spanish Mint	M 12
タイ王立造幣局	Royal Thai Mint	M 13
シンガポール造幣局	The Singapore Mint	M 5
オーストリア造幣局	Austrian Mint	M 1
イスラエル造幣局	ICMC - The Holy Land Mint	M 6
ポルトガル国立造幣局	Portuguese State Mint	M 9
一般財団法人 印刷朝陽会	Insatsu - Choyokai	M 17・18

◎海外参加社

シージーピー・ヌミスマティクス・パリ (フランス) CGB Numismatics Paris	K 7
チャンピオン・オークション (マカオ) Champion Macau Auction	F 5
コインズ・アンド・アンシエント・アート (ドイツ) Coins and Ancient Art	P 3
エディションズ・ヴィ・ガードウリー (モナコ) Editions V. Gadoury	R 4
エンポリウム ハンブルグ (ドイツ) Emporium Hamburg	N 6
キューカー・オークション (ドイツ) Fritz Rudolf Kuenker GmbH & Co. KG	R 1
ヘリテージ・オークションズ (米国) Heritage Auctions	E 4
ナイトブリッジコインズ/ボールドウィンズ・オブ・セント・ジェームズ (英国)	
Knightsbridge Coins /Baldwin's of St. James's	C 6
オーガスト・ドラゴニ (イタリア) Augusto Dragoni	C 6
マイク・ダニガン (米国) Mike Dunigan	P 9
ニューセンチュリー・コインズアンドノート (香港)	
New Century Coins & Notes	N 5
エヌジーシー・エヌシーエス・ピーエムジー (香港) NGC-NCS-PMG	R 7
ピー・シー・ジー・エス (香港) PCGS	G 5
プンサン・フアドン (韓国) Poongsan Hwadong	D 4
シュールマン (オランダ) Schulman B.V.	R 11
ミントコンパニエ (スウェーデン) Myntkompaniet	R 11
シルバー・ハウス (台湾) Silver House	A 4
シンコナ (スイス) Sincona AG	P 6
スピנק (香港) Spink	G 6
スタックスパウワーズ・アンド・ボンテリオ (香港)	
Stack's Bowers and Ponterio, Ltd.	F 6
ステイーブン・アルバム・レア・コインズ (米国)	
Stephen Album Rare Coins	R 10
エムディーシー・モネ・ド・コレクション (モナコ) MDC Monnaies de Collection	E 7

◎国内参加社

アカデミー商会	Academy Shokai, Co.Ltd.	B 1 ~ 4
アベノスタンプコイン社	Abeno Stamp Coin Co.	N 1・2
アローインターナショナル	Arrow International Co. Ltd.	E 1 ~ 3
ヴァンガードコイン	Vanguard Coin	A 1 ~ 3
薄井美術店	Usui Bijyutsu ten	H 5・6
永楽堂	Eirakudou	A 9・10
駅前コイン	Ekimae Coin Co.	K 1 ~ 3
カードショップトレジャー	CardShop Treasure	S 1・2
銀座コイン	Ginza Coins Co.	G 1 ~ 4
銀座ステラ	Ginza Stella Co. Ltd.	R 5・6
紅林コイン	Kurebayashi Coin	A 7・8
ケネディ・スタンプ・クラブ	Kennedy Stamp Club Inc.	H 1 ~ 4
コレクションハウス	Collection House	G 7・8
城南堂古美術店	Jhonando Kobijyutsu Ten	K 5・6
新岐阜商会	Shingifu Shokai	F 1・2
新橋スタンプ商会	Shinbashi Stamp Co. Ltd.	H 7 ~ 10
菅谷金銀堂	Sugaya Kingindo	F 9・10
杉本梁江堂	Sugimoto Ryokodo	P 1・2
セキグチ	Sekiguchi	C 7 ~ 10
世田谷スタンプコイン	Setagaya Stamp Coin	F 7・8
泰星コイン	Taisei Coins Corp.	D 5 ~ 10
大盛スタンプコーナー	Taisei Stamp Corner	A 5・6
大日スタンプ・コイン	Dainichi Stamp Coin	P 4・5
多摩コインクラブ	Tama Coin Club	N 7・8
ダルマ	Daruma International Galleries	B 7 ~ 10
寺島コイン	Terashima Coin	F 3・4
日郵コイン	Nichiyu Coin	D 1 ~ 3
nissho coin.com	Nissho Coin.com	K 4
野崎コイン	Nozaki Coin	E 8 ~ 10
ファミリースタンプ	Family Stamp	B 5・6
フクオ	Fukuo	E 5・6
フクオスタンプ社	Fukuo Stamp Co.	N 9・10
松浦古銭堂	Orient Coin Center	P 7・8
ミントミントオークション	Mint Mint Auction	N 3・4
モリシタ	Morishita	R 8・9
大和文庫	Yamato Bunko	G 9・10
ユキオスタンプ	Yukio Stamp Co. Ltd.	K 8 ~ 10
ロイヤルコイン	Royal Coins Co.	R 2・3
ワールドコインズ・ジャパン	World Coins Japan	C 1 ~ 5
ワタナベコイン	Watanabe Coin	S 3・4
書信館出版	Shoshinkan Publication Co. Ltd.	M 10
日本貨幣商協同組合	Japan Numismatic Dealers Association	本部

第30回東京国際コイン・コンヴェンション 特別展示品 TICC

「江戸の金遣い ～ 徳川の造った金貨～」と銘打った特別展示です。
造幣局・造幣博物館所蔵の名品はもとより、全国の収集家のコレクションが一堂に集まります。
国内最大の東京国際コイン・コンヴェンションならではの、豪華な展示となりました。

1. 元禄大判金、小判金、他 各品種の展示

徳川幕府の時代を彩る各種大判金・小判金。その中でも特に代表的存在である元禄大判金、元禄小判金、宝永小判金などの品々を展示いたします。なかでも元禄大判金は、現存数が少なく稀少性の高い逸品です。実物を是非この機会にご覧ください。
展示品は、造幣局 造幣博物館所蔵品です。

2. 徳川幕府の貨幣制度を支えた金貨幣の展示

今回のテーマに沿った徳川時代の金貨幣たちの中でも、少額の分金・朱金、小判、大判などを展示いたします。全国から集められた稀少な実物が展示されます。徳川の時代終了以降、一堂に会するまたとない機会です。

第30回東京国際コイン・コンヴェンション 企画品 TICC

独立行政法人 造幣局

第30回東京国際コイン・コンヴェンション 貨幣セット

今年で
24年目の
発行！



¥1,900

(税込) 詳しくは P11 をご覧下さい。

国立印刷局

TICC第30回記念 スーベニアカード

今年で
28年目の
発行



詳しくは
P13 をご覧下さい。

¥1,250 (税込)

近代金貨収集手引き

ご来場の皆様に無料進呈いたします。



※写真は参考です、実際のデザインとは異なる場合がございます。

加納夏雄のデザインが世界的評価を得ている日本の近代金貨。タイプ別・年号別にエピソードとともに、オールカラーでわかりやすく紹介致します。

入場者全員の中から抽選で豪華賞品が当たります

期間中、入場者全員の中から抽選で豪華賞品をプレゼント！応募用紙は、会場受付またはダイレクトメールに同封されている住所確認表です。



●TICC 金賞 1名様
万延小判金
日本貨幣商協同組合組合鑑定書付

●TICC 銀賞
東京 2020 オリンピック競技大会
記念千円銀貨幣(水泳) 2名様
東京 2020 バルニンピック競技大会
記念千円銀貨幣(柔道) 3名様

●TICC 銅賞 10名様
第30回 TICC 記念クオカード

※画像は
イメージです。

※抽選結果は後日、発送をもってかえさせて頂きます。また「収集」6月号にて発表致します。

第30回東京国際コイン・コンヴェンション 特別販売品 TICC

享保小判金

徳川幕府中期、8代将軍吉宗の時代の小判です。

鑄造された期間は享保を挟んだ正徳後期から元文前期までですが、鑄造期間の大半が享保期のため享保小判金と呼ばれます。

金品位の良い徳川幕府最初の小判「慶長小判」を手本として発行されました。

美品以上のものに日本貨幣商協同組合推奨プレートをお付けしております。



※ 80% 縮小図



※写真はイメージです。

美品
日本貨幣商協同組合鑑定書付
480,000 円 (税込)

天保小判金

天保小判金は徳川幕府後半の天保 8 年(1837 年)から鑄造が始まりました。

この天保小判金からローラーによる延金が行われ、以前のものに比べ平面性および均質性が向上しました。

見た目にも美しい仕上がりの小判金といえます。

美品以上のものに日本貨幣商協同組合推奨プレートをお付けしております。



※ 80% 縮小図



※写真はイメージです。

美品
日本貨幣商協同組合鑑定書付
180,000 円 (税込)

万延小判金

徳川幕府末期、万延元年(1860 年)から鑄造が始まりました。

徳川幕府最後の小判で、大政奉還の慶応 3 年(1867 年)まで製造されました。

美品以上のものに日本貨幣商協同組合推奨プレートをお付けしております。



※写真はイメージです。

美品 日本貨幣商協同組合鑑定書付
95,000 円 (税込)

二分判金と一分判金は小判金と同じく徳川時代の基軸通貨です。

二分判金は 1/2 両、一分判金は 1/4 両の貨幣価値となります。安政二分判金は徳川幕府後期の安政 3 年 6 月 2 日(1856 年)から、元文一分判金は徳川幕府中期の元文元年(1736 年)から鑄造が始まりました。

発行枚数も多くお値段もお手頃ですので、これから収集をはじめようとお考えの方にはお薦めのアイテムです。

安政二分判金



※写真はイメージです。

美品
15,000 円 (税込)

元文一分判金



※写真はイメージです。

美品
15,000 円 (税込)

日本紙幣の肖像やデザインの謎

紙幣の図柄などに関する歴史を探る



東京国際コイン・コンヴェンション (TICC) 開催 30 年を記念して、2005 年の第 16 回以降記念講演を依頼して来た紙幣研究家・植村峻氏の講演のうち、日本紙幣に関連した 11 回分の記念講演をまとめて出版する事になりました。

TICC 会場にて発売致します。

4 月 28 日 (日) の記念講演後には、この出版を記念して、植村峻氏のサイン会も行います。

植村 峻・著 / 発行：日本貨幣商協同組合
定価：本体 2,200 円 + 税

第 30 回記念講演 クラウンルーム B にて

4 月 28 日 (日) 14:00 ~

サイン会 (記念講演終了後) ホワイエ前にて

4 月 28 日 (日) 15:30 ~

チャリティーくじ

TICC

今年もチャリティーくじを行います。各国造幣局、出店ディーラーよりたくさんの賞品を提供していただきました。東京国際コイン・コンヴェンションは少しでも日本赤十字社が行う赤十字活動のお役に立てるよう、チャリティーくじの売上は全額、日本赤十字社へ寄付させていただきます。ご来場の皆様には是非ともご協力をお願い申し上げます。

コンヴェンション本部にて
チャリティーくじを開催中です！

【開催時間】 4 月 27 日 (土) 13:00 ~ 18:00

28 日 (日) 12:00 ~ 17:00

29 日 (月・祝) 12:00 ~ 16:00



※賞品がなくなり次第終了となります。

日本赤十字社コーナーでの世界のコインの配布は、
28 日 (日)・29 日 (月・祝) の 2 日間のみとさせていただきます。
初日の 27 日 (土) は、コインの配布は行いません。

配布のスケジュール

28 日 (日) 11:00 ~ クラウンルーム B

29 日 (月・祝) 11:00 ~ クラウンルーム B

※コインの配布は、両日ともに
無くなり次第終了となります。

東京国際コイン・コンヴェンション こどもスタンプラリー

TICC

各国造幣局を回って、スタンプを集めると、
ガチャガチャに参加出来ます。

4 月 28 日 (日)、29 日 (月・祝) の 2 日間で
開催いたします。 ※中学生以下のお子様に限ります。



4月27日(土) 「江戸の金遣い」
14:00~15:30

【講師】松山大学名誉教授
岩橋 勝 (いわはし まさる)



【略歴】

1941年生まれ。1967年大阪大学大学院経済学研究科中退、1983年経済学博士(大阪大学)。大阪大学経済学部助手を経て、1969年松山商科大学(現、松山大学)赴任、教授を経て2012年退職。この間、社会経済史学会理事、貨幣史研究会代表などを歴任。

【主要著作】

『近世日本物価史の研究』(大原新生社、1981年)、『日本のお金の歴史 江戸時代』(ゆまに書房、2015年)、『近世貨幣と経済発展』(名古屋大学出版会、近刊)、共著に『経済社会の成立』(岩波書店、1988年)、『近代成長の胎動』(岩波書店、1989年)、『流通経済史』(山川出版社、2002年)など多数。

4月28日(日) 「我が国の紙幣印刷近代化に貢献した人々」
14:00~15:30

【講師】紙幣研究家
一般財団法人印刷朝陽会 調査研究部長
植村 峻 (うえむら たかし)



【略歴】

昭和10年生まれ、昭和33年都立大学卒業、大蔵省印刷局勤務、平成元年大蔵省印刷局滝野川工場長、平成3年印刷局業務部長、平成6年退職、平成10年(財)印刷朝陽会専務理事、平成19年(財)印刷朝陽会事務局長・調査研究部長

【主要著書】

『世界の銀行券』『紙幣肖像の歴史』『世界紙幣図鑑』『贋札の世界史』『お札のはなし』『日本紙幣肖像の凹版彫刻者たち』『切手印刷のはなし』『紙幣肖像の近現代史』

収集家団体の有志によるセミナー ロイヤルパークホテル3階クラウンルームB TICC

4月27日(土) 「世界の記念貨幣～スポーツコインの歴史と背景～」
16:00~17:30

【内容】スポーツをテーマとした記念貨幣の収集と楽しみ方を紹介します。 講師:海沼貞夫氏(日本貨幣協会参事 諏訪コインクラブ会長)

日本貨幣協会

4月28日(日) 「収集歴50年を超えて～大型銀貨・貿易銀の収集を中心に～」
16:00~17:30

【内容】収集歴50年を超える山老隆氏から大型銀貨、貿易銀の収集をふり返り、コレクターの立場から収集の楽しみ方を語って頂きます。

外国コイン研究会

4月29日(月・祝)「よろず相談会30」
14:00~15:30

【内容】「円銀並年号の魅力(手変り等)」を主テーマに恒例の「よろず相談会」を実施します。近代銭の収集に関する相談や情報交換はなんでも歓迎致します。

日本近代銀貨研究会

日本貨幣商協同組合主催催事スケジュール

●名古屋 **「第24回 なごや大収集まつり」**

会 期:5月24日(金)~26日(日)
場 所:ウインクあいち6F 展示場

●大 阪 **「第17回 大阪コインショー」**

会 期:6月14日(金)~16日(日)
場 所:OMMビル2階Aホール

●名古屋 **「第1回 名古屋コインショー」**

会 期:8月30日(金)~9月1日(日)
場 所:ウインクあいち8F 展示場

●大 阪 **「第47回 おおさか大収集まつり」**

会 期:10月4日(金)~6日(日)
場 所:心斎橋御堂筋ビル9F

●東 京 **「第17回 東京コインショー」**

会 期:11月8日(金)~10日(日)
場 所:大手町サンケイプラザ3F

○催事案内ご希望の方は、組合までお葉書でお申込み下さい。 東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル409
TEL.03-3508-1701 FAX.03-3593-1029

江戸の金遣い

(松山大学名誉教授) 岩橋 勝

はじめに

古代の日本では富本銭や和同開珎などが、200 年余にわたって国家の手により鑄造・発行されました。これは東アジアの中国周辺地域で、中国以外に独自の銭貨を発行したもっとも古い事例とされています。さらに、10 世紀半ばにいわゆる皇朝十二銭のなかで最後の銭貨である乾元大宝の発行以降に停止されたあとは、主に宋銭などの中国渡来銭が国内で使用されました。その後、徳川家康によって金・銀・銭(銅)からなる三貨制度の端緒が開かれるまでの約 650 年間、米や絹・麻布などが物品貨幣として用いられることはあっても、主要な交換手段や価値保蔵手段は銭貨だったわけです。近年、貨幣考古学という分野が発達し、出土銭からそれらが流通した時代を特定し、主要な銭種が確定できるようになっていますが、大きな甕で銭貨をまとめて貯蔵する慣行は、じつは江戸期に入ると急激に少なくなります。これはより高額で価値が高く、富を蓄えるためにかさばらない金銀貨が大量に出まわるようになり、それまで銭貨が果たしてきた役割が大きく変化したことをあらわしています。

戦国時代も後半になると、諸国で金山や銀山がより活発に開発されるようになり、採掘に成功した大名たちはその資力を基盤にして勢力を拡大したほか、その鉱山の奪取のため、より有力な大名から攻められる対象となりました。当時の主要な金銀鉱山は、最終的に天下人の所有となったわけです。そうした中で、長く銭貨を中核としていたわが国の貨幣体系を、金・銀・銭に代えただけでなく、後に円の誕生をともしう近代貨幣制度につながる統一的な貨幣の枠組みの基礎を設定したのが徳川家康といっても過言ではありません。

「江戸の金遣い」という表現には 2 つの意味合いがあります。一つは、東の金遣い、西の銀遣いというときの意味で、江戸を中心とする東日本では金貨を取引の基準とし、実際に流通した貨幣も金貨が主に授受されたということを意味します。もう一つは、文字どおり、江戸期は金遣いであったという意味です。江戸時代は三貨制度と一般にいらわれていますが、なぜそのうちの「金遣い」が優位になったのでしょうか、そうした事情の解明を中心に、以下、解説しましょう。

1 17 世紀初頭の鉱山分布

江戸期貨幣は東日本では金遣い、西日本では銀遣い、そして日常的な小額取引では全国的に銭遣いであったといわれています。金銀貨の東西での使われ方の違いが生じた理由は諸説がありますが、鉱山の分布状況が理由という説が有力説のひとつです。図 1 は 16 世紀から 19 世中期にいたる全国で稼行された主要な鉱山を示しています。このマップを見ると、たしかに金山は東日本に多く存在していますが、九州南部でも目立っています(余談ですが、現在、国内金山で唯一採掘している菱刈鉱山は鹿児島県北部にあり、1985 年の操業開始以来すでに 240 トンの金を採取しています)。

しかし、金山は時代によって採掘方法が大きく異なり、近代に入ってより高度な鉱山技術のおかげではじめて採掘可能になった金山もあるので、各地の稼行時期別に観察すると、17 世紀初頭の金山は相当に限定されます。16 世紀末の時点では、越後、佐渡、出羽 3 国を支配していた上杉氏の領内からの産金が主流を占めており、のちに銀山に移行する佐渡とともに、越後北部の高根金山の産金が群を抜いていました。慶長 3 (1598) 年に全国諸侯から豊臣秀吉へ金銀山採掘収益の



写真 1 越座天正小判金(初期) 4 匁 (拡大 2.5 倍)

一部を運上として収納させた記録である「蔵納目録」によれば、1年間で約3,400枚の「板金」が上納され、うち上杉氏の分が全体の6割近い2,022枚も占めていました。上杉氏について豊臣秀吉への運上が多かったのは陸奥の伊達氏700枚、常陸の佐竹氏221枚で、いかに上杉領の産金が出立していたかがわかります。このためもあったかこの年に上杉景勝は120万石という大名扱いではありましたが、会津若松に転封となり、こののち近世日本の代表的鉱山となる佐渡金銀山を失ってしまいます。上杉氏は越後時代にこれらの金山からひるも金や延金のようなさまざまな形状の金貨幣をつくっていたことが知られますが、今日明確に観察できるのは上杉謙信時代作の天正越座金(写真1)という小型円形のもののみです。

謙信と覇を争った武田信玄が支配した甲斐にも金山が多く、すでに16世紀前期から多種な形状の金貨幣がつくられ、流通していたことがあきらかです。甲斐国内だけでも黒川・中山・保村・中村・黒桂・川尻・御座石・黄金沢・雨畑等の諸金山が開発され、さらに、支配地拡大とともに駿河の富士金山や安倍川上流の梅ヶ島・井川金山も手中に収め、信濃進出とともに諏訪・佐久地方の金山採掘を試みました。これらの豊富な資源をもとに後述のような甲州金といわれる体系性をもった金貨幣が鑄造され、徳川家康による慶長金貨鑄造のモデルとなったばかりでなく、江戸中期にいたるまで幕府金貨とは別に独自の流通が認められていたことはよく知られているとおりです。

上杉、武田氏には少し遅れて、加賀100万石の支配者となる前田氏も領内鉱山開発を進めます。とくに、加賀ほか能登・越中2国の一部支配を開始した天正12(1584)年には能登の宝達金山採掘を開始したほか、越中新川郡(現魚津市近辺)では14世紀末には松倉金山、16世紀前半には河原波金山、そして1595年に同郡が前田氏領となる20年ほど前にも下田金山がすでに稼行されており、元和元(1601)年にもあらたに新川郡で虎谷金山が開鉱されて40年余採掘が盛んであったことが判明しています。前田氏はこれらをもとに、室町幕府御用以来の系譜をもつ後藤徳乗一門の彫金師を金沢に招き、独自の金貨幣を鑄造し、領内の産銀をもとに鑄造した加賀花降銀などとともに領国金銀貨(写真2)を流通させています。



写真 2-1 越中寛永梅鉢小判金 4.77 匁

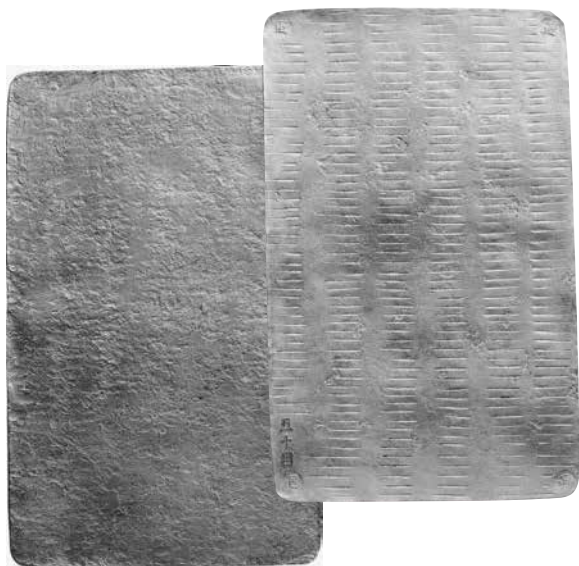


写真 2-2 越中慶長五十目判金 50 匁

四隅に「正」の極印、左下に「五十目」の鑿刻印があり、大きい取引の際に便利な判金。松倉金山等の産金で鑄造されたものと思われる。



写真 2-3 能登天正牛舌判金 12 匁

能登宝達金山は天正12年開鉱。当時能登天秤座(銀座)があった。嶺上の比咩神社祭禮の供物中に牛の舌餅と呼ぶものがあり、往古は牛の舌判金を献備していた神社と推考されている。

当時、国内の判金は信長の時代には品位は一定にしえないまでも、後の大判に相当する、おおむね70%前後の純分度で、重量が10両(約44匁=165g)になるよう板状に加工する技術段階までは発展していたようです。ただし、地域により量目の単位自体がまちまちであったり、後の小判に相当するより小型の板金や、切遣い用の棒状金塊もつくられていたりしたことが推定されます。兵器や兵糧調達などの軍資金として貨幣的に支払い手段として使われることもありましたが、これらの主要な用途は贈与、賞賜金であったので、製作にあたりげんみつな品位・量目はまだ要求されていませんでした。

なお、上述の金山のほかにより古くは、伊豆の土肥や駿河の富士金山も江戸期に入るまでの主要鉱山となっています。さらに、図1では示されていませんが、奥州藤原氏(清衡・基衡・秀衡)による平泉文化を経済的に支えたものが、北上川沿岸で採掘された砂金であったこともよく知られています。砂金は後の金鉱石のように坑道を掘削して採掘するのではなく、自然金から採取するものでした。その地質的には、一方では岩石が風化し、降雨で流された川砂中に含まれる砂や粘土とより分けるため、揺り鉢という用具で採取する方法です。発見された地域では奈良時代から特別に重宝され、容易に採取できました。ただ、古代では陸奥、出羽のほか、平安末期に佐渡西三川で採取される程度で限られていたので、きわめて珍重され、朝廷やその地方への貢納・贈与に適していました。砂金は文字通り砂から小粒な塊まで不定形(写真3)であり、散失しないよう袋に入れられて授受されました。次第にその取扱いは(1両=4.4匁)を基準としてあつかわれるようになって、その品位は100%ではなく、おおむね70%前後(65%程度)として存在していました。

16 世紀中期に諸国の金山開発が進んだ背景として、とくに銀山開発でおおきな役割を果たした灰吹法という精錬技術の伝播があります。これは明国にはじまり、わが国へその技術がもたらされた後、1533（天文 2）年に博多商人の神谷寿禎が石見の大森銀山ではじめて実施したといわれるものです。金銀鉱石に鉛と骨灰を炉の中で吹き合わせて金銀成分を取り出す技術で、これにより金鉱脈にそって坑道から掘り出した山金といわれる鉱石を砕いて精練することにより、砂金採取よりもはるかに大量かつ純度の高い金を得ることができるようになったのです。

2 徳川家康の金貨

家康がいわゆる慶長金銀の鑄造（げんみつには「打造」）・発行を開始した時期が、江戸幕府を開く1603（慶長8）年の2年前であったことはよく知られています。ただし、すでに1600年の関ヶ原合戦で東軍としてすでに西軍に勝利し、秀頼をとりまく豊臣勢力は大坂城に残っていたとはいえ、事実上、日本の覇権を握った後の鑄造・発行でしたので、慶長小判・丁銀は当初から全国向け通用の貨幣であったといえます。

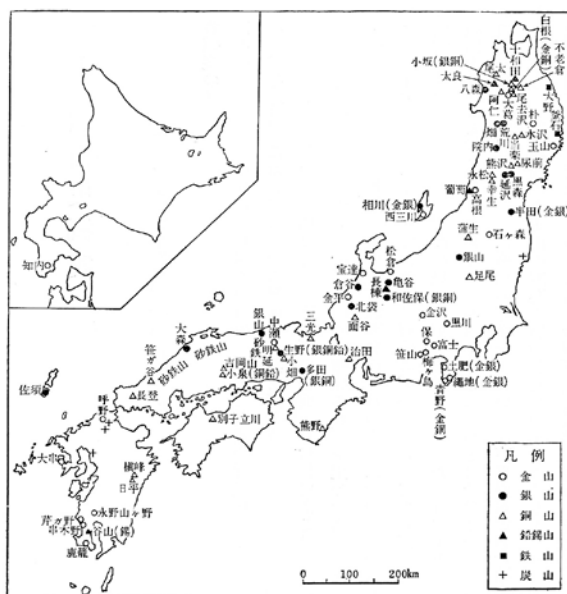


図1 16-19世紀中期の重要鉱山分布図



写真3 砂金

それでは慶長金銀が家康による最初の貨幣かという、そうではありません。それに数年さかのぼる文禄5(1596、慶長元)年、家康がまだ太閤秀吉天下での有力大名であった関東八州支配時代に鑄造した武蔵墨書小判(写真4)が最初の金貨でした。

家康(市村正親)が目指したのは、全国共通貨幣「小判」を一手に製造する首都・江戸の建設である。この頃、日本の経済の中心は、豊臣家の拠点・大坂であった。大坂に物が集まり人も集まり、発展を遂げる。江戸を大坂以上の経済都市にする。そのためには日本全国に流通し、安心して利用される日本初の流通貨幣を「江戸」で、製造しなくてはならない。家康が抜擢したのは、褒賞の品としての大判の金貨作りを牛耳ってきた京の名家後藤家の一職人に過ぎない橋本庄三郎(柄本佑)であった。随一の腕を誇りながら、「後藤家の人間」でないため、名を出して仕事をする事ができなかった庄三郎にとって、江戸に行き家康の下で「天下万民に流通する日本初の小判」を作れることは千載一遇のチャンスであった。しかし、京の後藤家当主・徳乗(吉田鋼太郎)は娘・早紀(広瀬アリス)との縁組をちらつかせたり、さらには秀吉の力をも使い、小判製造の邪魔をする。庄三郎はひたすら均一で上質な小判作りにまい進する。

これは今年 NHKTV の正月時代劇「家康、江戸を建てる」(原作; 2017 年下期直木賞作家・門井慶喜) HP に記された後編「金貨の町」(1月3日放映)のあらすじです。後藤家は室町幕府で彫金師として御用をつとめ、その後も京都でつねに権力者に重用された名門です。天下人秀吉に仕えていた当主・後藤徳乗のもとで一職人として励み、腕を上げた庄三郎が猶子となった後、後藤家名代として家康の要請により江戸に下ったのが文禄末年であり、手始めに武蔵墨書小判をつくったわけです。

家康は当時、武田氏がかつて支配していた甲斐を信長死去のあと1582年から領有しており、信玄時代に発行されたいわゆる甲州金(写真5)をモデルとして、秀吉とは異なる独自の金貨を発行しようとしています。秀吉の金貨といえば天正大判(写真6)が有名です。その1枚だけで当時、米40～



写真4 武蔵墨書小判

Musashi Sumigaki Koban

文禄5年頃 ca.1596/ 重量 (Weight) 18g/ 品位 (Fineness) 金 Gold 88%



写真6 天正大判金 (75%縮小)



写真5 甲州金

50 石購入できる価値がありましたが、その用途はその大きな価値ゆえに、もっぱら高貴な相手への献納や武将等への賞賜・贈与に用いられ、貨幣がほんらい持っている支払手段としてはほとんど使用されていなかったことはすでに述べたとおりです。その用途のためか、秀吉は大判より小額の金貨は作っていません。家康は天下人となった後の貨幣経済を見越して、より小額の金貨発行を敢行したようにもみえます。しかし、甲州金は最大額面が1両であり、むしろさらに小額な1分、1朱、1糸目（1朱の4分の1）金（0.2グラム）というような極小額金貨も作られていますので、甲州では文字通り金貨だけでも支払手段が間に合う特殊な地域であったということが出来ます。逆言すれば、当時の江戸では前代からの銭貨がまだ十分に出まわっており、1分金相当以下の小額取引には銭貨で間に合っていたことが想定されます。徳川幕府の銭貨・寛永通宝は慶長金銀に35年も遅れて初めて鑄造されることになる事情が、これまでもいろいろ議論されますが、上述のことが金銀貨に合わせて早期に「家康の銭貨」は発行する必要がなかったといえましょう。

武蔵墨額小判は天正大判の10分の1の小型判といってよいほど、形態がよく似ています。天正大判以前にも蛭藻金や譲葉金といった、楕円形で樋目を入れながら延ばした板状の金貨が金山を領有する戦国大名によって作られています。大きさと重量が一定せず、貨幣として用いられることがあれば、基本的には秤量貨幣であったということになります。それらと比較して、家康は金貨については当初から品位と重量を一定にして鑄造しようとしていたことがよくわかります。ただし、1枚ずつ表面に墨書きをおこなうことは大量発行には向かず、初鑄後3、4年で鑄造を停止し、あらたに極印様式のことを模索することになりました。これが慶長小判になります。

また、墨書小判発行後の1599（慶長4）年、短冊形で小判の4分の1の量目の額1分金（写真7）を鑄造します。その表面周囲に二重の圏点の額縁状の枠があり、「壹分」と刻されていることで、慶長1分金と区別でき、鑄造額も少ないことから試作品ではないかとされています。上述の甲州金のなかに1分金も作られており、しかも円形が多かったなかで角形の1分金も含まれていました。秀吉の時代に唯一の小額貨幣として太閤円歩金（裏面に「後藤光次」の花押極印があることから、家康の領国向け金貨説もある）が作られており、甲州金の1両金貨も碁石形でしたので、家康はあえて主流から外れる角形1分金を採用したことがわかります。このように、家康は当初こそ領国通用向けの金貨鑄造を始めたものの、1598年の秀吉の死を契機に全国向けの金貨鑄造に切り替えた、その結果が慶長小判であったということになります。

慶長小判はその後2世紀半以上にわたる江戸期通貨の基軸となります。後述のように、高額貨幣は金銀の2種があったのですが、時とともに銀貨は金貨を実質的に補足する地位に交代することになるからです。その基軸となる慶長小判の製法を簡単に紹介しておきましょう。

江戸期の金貨と銀貨は一般に「鑄造」といい、新貨に変更することを「改鑄」といっていますが、じつはこれは正確ではありません。前近代で鑄造された貨幣は銭貨のみで、金銀貨が鑄造されるのは「円誕生」となる明治以降のことです。鑄造というのは素材となる金属を熱して溶解し、液体の状態のまま一定の鑄型に入れて固形物に仕上げるものです。江戸期の金銀貨ははじめに溶解して一定の品位構成になるよう調整はしていますが、ある程度の形には整えて固形化しますがいずれも不定形で、その後さまざまに打刻する、厳密には「打造貨幣」といわれるものです。西洋

では古代いらい打造貨幣が一般的でしたが、アジアでは銭貨がおもな流通貨幣でしたので、当初から鑄造貨幣として作られています。



写真7 額1分金

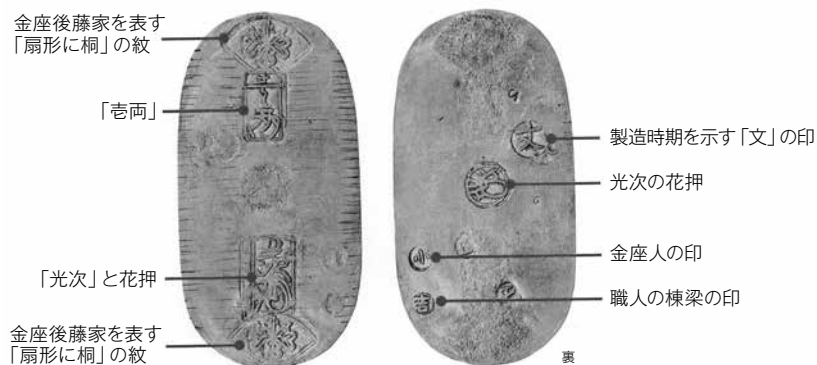


写真8 元文小判金

戦国期らしいの金貨も、銀との成分比率が一定になるよう溶解し、合金にしたものを棹状ないし板状にしたものを一定の量目になるよう切断し、小判の場合、個別に鉄製の槌やたがねで楕円形の切片に成形して作ります。その際、横状に刻みがととのって入りますが、それは中身の成分に偽りのないことを表示するためといわれています。さらに製造にあたった小判師（元禄以降は金座人）と最終検査にあたる金御改役である後藤家（庄三郎）が極印や「光次」名を打刻して入れ、品位、量目、形態の検査を済ませ、市場に出されました。このように、製造工程は相当に精緻をきわめましたが、大量にまとめて作るため、1枚当たりのコストを抑えることができたわけです。（写真 8）

3 三貨制度の中での金遣い

武田信玄に心酔していたといわれる家康が甲州金をモデルに、それまで金貨の主流であった大判ではなく独自の小判と1分金を発行するまでの経緯を解説してきましたが、江戸時代の貨幣制度は金銀銭の3種からなる複本位制でした。「本位制」というかぎり、金建てで値段がついている場合、基本的には金貨以外では取引しないということの意味し、銀貨をどれだけ用意しても買主がそれを金貨に両替して相応の金貨を提示しないといけない、ということの意味します。銭貨は金銀貨とくらべるときわめて価値が低く、たんなる補助貨幣とみられがちですが、地域によっては出雲松江藩や南部盛岡藩のように、高額でも銭貨でもって藩財政や域内経済が展開する地域もまれではないほど、本位貨幣としての機能を発揮しました。

それにもかかわらず、江戸中期頃、庶民経済が貨幣をより多く必要としはじめるあたりより、三貨それぞれの独自性が金貨を中軸として回ってゆくようになります。その推移をおおまかにとらえることができる数表（表1）を見てください。幕府が貨幣改鑄をおこなった時点でその直前の三貨在高を比較するため、いずれも金貨の単位である両に換算していますが、吉宗治世の1730年代辺りまでは金銀貨の比率はおおむね半々になっています（元禄改鑄直前では、銀貨の比率がやや低いですが、これはこの時期までの慶長丁銀の海外流出がきわめて多かつ

表1 江戸期三貨流通量の推移

幕府金銀貨流通残高					幕府銭貨鑄造量			
改鑄開始年	金貨	計数銀貨	秤量銀貨	合計	鑄造期間	鑄造量	累計	両建て
年	千両	千両	千両	千両	年	万貫文	万貫文	千両
(寛永)					1636-39	275	275	688
(明暦一万治)					1656-59	50	325	813
1695 (元禄8)	10,627 (66)		5,467 (34)	16,094 (100)	1668-83	197	522 (100)	1,305
1710 (宝永7)	15,050 (58)		10,755 (42)	25,805 (100)	1697-1708	208	730 (140)	1,825
1714 (正徳4)	19,405 (52)		18,120 (48)	37,525 (100)	1714-18	50	780 (149)	1,950
1736 (元文1)	10,838 (52)		10,204 (48)	21,042 (100)	1717-35	184	964 (185)	2,410
1771 (明和8)	19,114 (68)		8,600 (32)	27,714 (100)	1736-47	745	1,709 (327)	4,273
1818 (文政1)	19,114 (66)	5,933 (20)	4,208 (14)	29,255 (100)	1765-88	① 502 ④ 215	2,426 (464)	4,043
1832 (天保3)	23,699 (52)	16,804 (36)	5,361 (12)	45,864 (100)	1821-25 1835-49	④ 32 ① 8	2,458 (471)	3,782
1858 (安政5)	28,315 (54)	20,536 (39)	3,902 (7)	52,750 (100)	1835-58 1859-67	百 1,860 ①— 318 ④ 206	4,326 (829)	6,655
1869 (明治2)	74,321 (57)	52,392 (41)	2,344 (2)	129,057 (100)		百 2,349	6,563 (1,257)	10,097

出典：岩橋勝「徳川時代の貨幣数量」（梅村又次他編『日本経済の発展』日本経済新聞社、1976年）、同「近世貨幣経済の日朝比較史試論」（『松山大学論集』17-2、2005年）をそれぞれ改訂し、さらに安国良一「天保通宝の鑄造高について」2018年1月貨幣史研究会報告資料を参照。

注：1 金銀貨流通量カッコ内は構成比率。

2 銭貨鑄造量カッコ内は寛文延宝期鑄銭累計量を100とする増加指数。

3 銭貨種別の略称は次の通り。①：1文銭 ④：4文銭 百：百文銭 その他は1文銭

4 幕末期までに銅・鉄1文銭が差引き合わせて318万貫文海外流出ないし摩耗消失と推定。

5 両建て換算は次の通り。秤量銀貨は1858年まで60匁、1869年は90匁替え、銭貨は1747年まで4貫文、1765-88年は6貫文、1821年以降は6.5貫文。

たから)。ところが、元文改鑄以降、幕府が改鑄を重ねるたびに銀貨の比率が小さくなるばかりです。ここで銀貨というのは、慶長期からその価値を重量で測る、品位は一定の(豆板銀を含む)丁銀(写真9)のことです。18世紀中頃までは銀貨はすべてこの秤量貨幣でしたが、田沼意次が幕政を動かしていた1765(明和2)年に明和5匁銀、1772(安永元)年に南鐐2朱銀(写真10)という、短冊形で品位・量目の一定した計数銀貨が発行されると、秤量銀貨が減少するペースに対応するように、逆に計数銀貨が増えてゆきます。この現象を、銀貨内の種類の比率構成の変化として理解するだけでよいのでしょうか。

明和5匁銀は、その12枚でもって金1両と交換させる(1両=銀60匁)ことを幕府が意図して発行しました。その品位は当時の基準銀貨である元文丁銀の46%とまったく同じに作られており、5匁銀が広く出回れば、もともと市場の金銀貨需給関係で金銀相場が変動していたにもかかわらず、丁銀相場も1両につき60匁に固定されることが幕府により期待されたわけでした。金銀相場が固定化されると、いろいろなメリット、デメリットがありますが、金遣いである江戸を本拠とする幕府の最大のメリットは相場変動に悩まされずに財政運営や、江戸市中への物資供給がより安定的にできることです。当時、江戸市中で必要な物資は江戸地回りという周辺地域で少しずつ生産され、購入できるようになりつつありましたが、近世初期以来、まだ大坂を中心とする銀遣いの西日本からの回送に依存していました。それらへの支払いはどうぜんに銀建てであり、江戸銀相場に応じて金貨を両替し決済しなければなりません。

近世中期においても江戸と上方における金銀貨需要の差は歴然としていました。表2は元文改鑄がはじまったあと3年間の新旧金銀貨引替状況を示していますが、江戸では新貨への引替は金貨が大半の97%余で、銀貨引替は3%足らずに過ぎません。それ自体流通比率を示すものでありませんが、新旧貨幣の引替量にこのような差があったということは、日常江戸では大半、金建て取引、金建て決済が行われていたことを意味します。ところが、上方では逆に9割近くは銀貨引替であったのです。このように両地域で金遣い・銀遣いがまだ明確に偏っていましたので、決済時の煩雑さと、今日の貿易収支の偏りから生じる問題と同様、場合によっては金銀相場変動による損失も悩みの種であったはずでした。

表1にもどって、田沼期以降の金銀貨流通在高に占める金貨の比率を見ると、幕末期まで半分余の比率で安定的に推移しています。ところが秤量銀貨がみるみる減少し、かわってそれを穴埋めするように計数銀貨の比率が増大しています。じつは、おなじ銀貨でありながら、この時期に大きな変化が生じていました。「銀貨の金貨化」といわれる現象です。明和5匁銀は大坂を中心とする上方経済界から大きな反発を受け、元文丁銀発行価額のわずか3%相当の数量が発行されたのみで、計画は事実上失敗しました。しかし、安永期発行の南鐐2朱銀は多少の困難はありましたが、当時の小額不足問題もあり、少しずつ西日本でも受容されるようになります。ただし、その額面に金貨の単位である「朱」があり、その裏面に「南鐐8片を以て小判1両に換える」という趣旨の文言が明記されていたように、8枚で小判1枚の価値をもつ2朱金とおなじ、いわば金貨の代用貨幣となったのです。2朱銀は「上銀」(品位ほぼ99.9%)で作られており、その含有純銀量は2.7匁、1両相当額では21.6匁(2.7×8)です。一方、当時の丁銀の純分率は46%でしたので、1両=60匁として、純銀量は27.6匁(60×0.46)となり、あきらかに2朱銀8枚とくらべると、不等価でした。つまり、2朱銀は丁銀とははじめてから交換できない貨幣と



写真9 慶長丁銀 (60%縮小)



写真10-1 5匁銀



写真10-2 南鐐2朱銀

表2 江戸期新旧金銀貨三都引替比率

A 元文金銀貨 1736-38 年

	金 貨		銀 貨			計
	千両	比率	貫匁	(金換算)千両	比率	千両
江 戸	8,594	97.4	12,251	229	2.6	8,823
京 都	373	13.0	133,951	2,499	87.0	2,872
大 坂	349	13.2	123,226	2,299	86.8	2,648
計	9,316	65.0	269,428	5,027	35.0	14,343

B 文政金銀貨 1820-23 年

	金 貨		銀 貨			計
	千両	比率	貫匁	(金換算)千両	比率	千両
江戸等東国	4,219	99.0	2,651	42	1.0	4,261
京 都	854	65.7	27,900	446	34.3	1,300
大 坂	1,080	49.1	69,960	1,119	50.9	2,199
計	6,153	79.3	100,511	1,608	20.7	7,761

出典：山口和雄「貨幣改鑄と三井組」(『流通の経営史』日本経営史研究所、1989) 29 頁 (原史料は、三井文庫蔵「元文引替所案内高留引替高写」および『三貨図彙』遺考巻 3、白東社、1931 年、1223-34 頁) より作成。

注：銀貨の金換算は、元文期は元文 2、3 年江戸相場平均 (1 両 = 53.6 匁)、文政期は文政 3 ~ 6 年江戸相場平均 (1 両 = 62.5 匁) を用いた。

して作られていたわけです。このように、2 朱銀はその額面ゆえに小判や 1 分金とは堂々と等価で交換できる「小額金貨」であったのです。

こののち、文政改鑄時に 1 枚の量目が 2.7 匁あった 2 朱銀は 2 匁に減らされ、さらにあらたに 1 朱銀も発行され、その量目は 0.7 匁しかありませんでした。いずれも南鐐 2 朱銀発行量よりも大量に作られ、幕府の得た出目益は相当なものになりました。その後も、天保改鑄以降に 1 分銀や 1 朱銀なども大量発行され、安政開国時には丁銀の大半が計数銀貨に改鑄し直される結果となります。これらは「銀製の金貨」ということができ、ほんらいの金貨を含めて構成比率をみると、明治初年には金銀貨総量の 98% が「金貨」で占められるようになっていたわけです。

では、もともと使われていた秤量貨幣である丁銀・豆板銀にもとづく銀遣いはどうなったのでしょうか。金銀貨の構成比率が大半「金貨」になっても、大坂を中心とする西日本では取引のうえでは銀建てが根強く残りました。ただし、江戸期経済は時とともに手形や帳簿決済のような信用取引が進み、現金決済は少なくなってゆきます。とくに銀遣い経済圏で信用取引の割合が多かったといわれます。また、西日本のうち九州のほぼすべてや、中国・四国の西部地域では、庶民間の貨幣経済が進むとともに、銀貨ではなく高額取引でも銭貨を地域内では用いるようになりましたので、経済発展とともに連動して銀貨需要がたかまったわけではありませんでした。

それにしても、表 1 における秤量銀貨の減少動向はいちじるしいものであって、その減少分をすべて信用取引や銭貨で補ったわけではありません。銀建て取引は明治初年まで強固に残り、決済時には金貨が時々の銀相場でもって用いられている例は多く確認できています。つまり、現金決済時に用いられた正貨の大半が金貨となっていたわけです。家康は当初から「金遣い」でもって経済を統一したかったフシがあったにもかかわらず、銀遣いが根強かった当時の西日本の現状に妥協せざるを得なかったと考えられます。このことは、関ヶ原の戦いや大坂冬の陣、夏の陣で軍事的に勝利を得た後、さらに敵対勢力をねじ伏せて、徳川王国ないし徳川絶対主義国家をつくろうとすれば不可能ではなかったけれど、家康一流の「厭離穢土欣求淨土」平和主義でもって、あえてリスクを避け、妥協せざるを得なかった姿勢が、貨幣面でも見ることもできるのではないのでしょうか。

(写真引用先；1 & 2 は文献 7、3・8 は文献 6、その他は文献 5、図 1 は文献 3)

参考文献

1. 岩橋勝「徳川時代の貨幣数量」、梅村又次他編『日本経済の発展』日本経済新聞社、1976 年
2. 岩橋勝「近世の貨幣・信用」桜井・中西編『流通経済史』山川出版社、2002 年
3. 小葉田淳『日本鋳山史の研究』岩波書店、1968 年
4. 瀧澤武雄・西脇康編 日本史小百科『貨幣』東京堂出版、1999 年
5. 日本銀行調査局編『図録 日本の貨幣』1 ~ 4、東洋経済新報社、1972 ~ 1974 年
6. 日本銀行金融研究所『貨幣博物館常設展示図録』、1987 年、2017 年
7. 三鍋昭吉編『越中の金・銀貨』桂書房、1991 年
8. 山口和雄『流通の経営史』日本経営史研究所、1989 年

我が国の紙幣印刷近代化に貢献した人々

得能良介（紙幣頭、紙幣局長、印刷局長）とキヨッソーネ（お雇い外国人）など

（紙幣研究家）植村 峻

まえがき 官省札の偽造多発とその対策検討

慶応4年（明治元年）に王政復古により樹立された明治新政府には、殆んど財政面での資金獲得手段がなかった。そのため、元福井藩士で藩政時代に財政再建で活躍した三岡八郎（後の由利公正）の提言により、政府が発行する実質的に不換紙幣であった「太政官札」の製造発行を開始した。この太政官札は、江戸時代末期に関西地方で銅版印刷技法を用いた藩札の製造を手掛けていた玄々堂・松田敦朝と、その門下生集団に製造を委託した。松田敦朝は治安上の理由から、京都の所司代において、越前福井の五箇村で製造された楮製の用紙を用いて、腐食銅版印刷方式により「太政官札」の各券種を印刷した。しかしこの太政官札の製造技術が、当時多くの藩において知られていたこと、またその技術自体が不完全で、均一な品質確保が不可能であったため、各地で精巧な偽造紙幣が横行した。すなわち、銅版腐蝕による彫刻画線の太さや形状が不均一であり、精巧な彫刻や製版技術者でなくとも、彫刻が容易であったことや、原版の完全精巧な版面複製技術が存在しなかったため、版面摩耗の際等には、その都度彫刻し直したことから、かなりのバラエティが生じ、真偽が判別しにくかった。また太政官札に使用された紙幣用紙は、藩札に多く使われていた楮紙であったため、偽造者が素材を入手しやすかった。更に紙幣用紙の表面がラフで平滑性がなく、精緻な図柄を印刷することが不可能であった。明治3年の太政類典・治罪審理の記録によると、岩月藩、天童藩など全国的に偽造事件は発生したほか、財政難に見舞われた福岡藩など一部の藩では、専門の紙幣偽造組織を設け、藩ぐるみで偽造を行い、関係者が処刑されたことが記録されている。そのほか、不良外国人等による国際的な太政官札偽造事件も発生し、民衆の紙幣自体の対する信頼が欠如し、流通が円滑に行かない事態が発生していた。



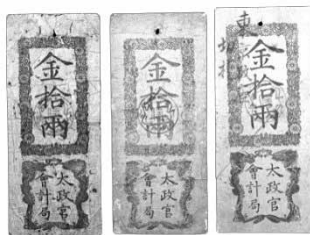
得能良介紙幣頭



凹版彫刻師
キヨッソーネ



正規の太政官札拾両札



偽造された拾両札



偽造され易かった
簡易な太政官札の銅版面

偽造防止対策が優れたドイツの印刷所への新紙幣発注

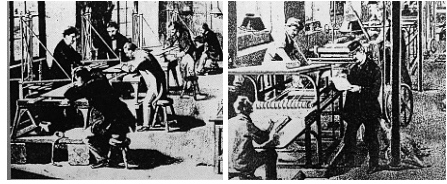
このような偽造紙幣の多発により、一般庶民の不安のほか、新政府の大蔵省や民部省でも対策を検討したが、もはや国内の印刷技術では対応できないことが判明したため、当初は英国の証券専門印刷会社に製造を委嘱する方向で検討を進めていた。しかしながら、1870（明治3）年4月の段階で、その噂を聞きつけたドイツのドンドルフ・ナウマン（Dondorf und Naumann）印刷会社が、ドイツ北部連合の駐日フォン・ブランド公使を介して、紙幣製造受託の意向がある旨、澤宣嘉外務卿経由で大蔵省に売り込みを行ってきた。その際に同社は単に紙幣製造の受託だけでなく、併せて将来には紙幣製造技術の伝承、機械類の譲渡も行う可能性を示唆していた。この提案を受けた政府は急遽同社への発注の意向を固め、紙幣発行業務を管轄する大蔵省は、明治3年11月に井上馨大蔵大輔から正院に対して上申を行い、その外注化方針が了承された。発注交渉の担当者として上野景範大蔵大丞、随員として前島密等を派遣し、ロンドンの公証人役場において、外務省の本間清雄書記官立会いの下で、ナウマン社の代理人との間で第1次分発注として9券種の紙幣約7600万枚、金額では総額約5千万円により新紙幣製造契約を締結した。



外国での紙幣製造発注を
上申した井上馨大蔵大輔



ナウマン社の宣伝資料



同社での紙幣の製版と印刷作業

第2次の紙幣製造契約の締結と紙幣製造監督

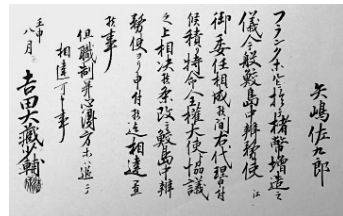
大蔵省では当初、偽造券の多い太政官札との交換用分の製造発注だけを企図としていたが、その後明治5(1872)年10月には、江戸時代に全国で流通していた藩札を回収して新紙幣に交換するほか、政府発行の紙幣との交換用のために必要な約1億枚、金額では5千万円分の第2次紙幣発注が行われた。この第2次発注では、第1次契約に立ち会った外務省中弁務使で駐仏公使の鯨島尚信、本間清雄書記官が日本政府を代行して契約を締結し、新紙幣追加分が製造されることとなった。同社における紙幣製造の現場監督官には、旧徳山藩の留学生としてロンドンに滞在していた矢嶋佐九郎(矢嶋作郎)や本間清雄が担当した。その後、明治6年5月5日には岩倉具視率いる遣米欧使節団の一行も、新紙幣製造中のナウマン社を視察しており、同社における製造作業は、随員の久米邦生によって詳細に記述されている。



鯨島尚信中弁務使



フランクフルト市の風景



矢嶋作郎に対する監督官任命の辞令

ナウマン印刷所で勤務のキヨッソーネは単なる凹版彫刻者ではなかった

一方、明治8年1月に紙幣寮のお雇い外国人彫刻師に就任したエドアルド・キヨッソーネ(Edoardo Chiossone)は、凹版彫刻の才能や技術が優れており、イタリア国内でも有数の凹版彫刻者であった。彼はイタリア・ジェノバ市の中心部にあるリグスティカ美術学校(Accademia Ligustica di Belle Arte)を優秀な成績で卒業し、卒業後は恩師の下でもっぱら凹版彫刻の仕事で生計を立て、国際的な展覧会でも入賞するなど優秀な人材であったが、同時に彼は1870年に統一国家となったイタリア王国の国立銀行とも縁があった。その当時のイタリア王国内では、統一紙幣が発行されておらず、各主要地域の5つの銀行が独自に外国に依頼して銀行券を製造、発行していた。統一国家となったイタリア王国の国立銀行(Banca Nazionale nel Regno d'Italia)には銀行券印刷工場はなく、アメリカやドイツの紙幣印刷会社に外注している状況であった。近代的な紙幣印刷所設立を検討していた銀行の要請に応じて、紙幣製造に不可欠な凹版彫刻技師への就職を希望していたと思われるキヨッソーネは、同行の嘱託職員に採用された。そして、将来の紙幣印刷所開設のために、月額600リラの報酬を受けながら、他の彫刻師をはじめ紙幣製造に不可欠な製版、印刷技術を担う各部門のスタッフ合計18名の人材をスカウトし、1867年以降当時先進的な紙幣印刷技術を誇っていたドイツ・フランクフルト所在のドンドルフ・ナウマン印刷所での嘱託研修に従事した。

当初予定の研修期間が過ぎた後も、キヨッソーネは1870年までの勤務期間延長を願い出て、紙幣のデザイン、凹版彫刻技術だけではなく、関連する紙幣製造工程に不可欠な縮小機械のパンタグラフや彩紋彫刻機などの操作技術、耐酸膜製法、電胎法、エルヘート凸版製版などの技術を習得した。彼は近い将来、イタリア王国に設立予定の紙幣印刷所全体を取り仕切る技術者として、責任ある地位への就職を期待していた模様である。これらの事情は、キヨッソーネの研究者として著名なイタリア人のリア・ベレッタ女史が、当時の銀行側とキヨッソーネとの間の多

数の往復文書を調査研究された結果、その詳細が明らかになっている。しかし、肖像彫刻や印刷技法に関する見解の相違からか、結局彼は新設予定の国立銀行印刷所への就職希望が叶えられなかった。その間の1871年には、日本政府から同社に「新紙幣（通称「ゲルマン紙幣」）」の製造依頼があり、キヨッソーネは銀行の許可を得て、新紙幣のデザイン、主要な凹版図版及びエルヘート凸版模様の版面のデザイン、彫刻など重要な業務を担当し、これを完成させたのであった。

その後イタリアでは、複数あった発券銀行を統一することとなり、その際にキヨッソーネは自らがデザイン彫刻した作品のブルーフを持ち込んで就職活動を行った模様であり、それが国立銀行、ナウマン社と、嘱託職員であったキヨッソーネの間の委託契約条件の守秘義務違反に問われる紛争事案となり、キヨッソーネはナウマン社を離れ、イギリスの大手証券印刷会社であるデラルー社に転職したのであった。その後、本件トラブルはブルーフを銀行・会社側に引き渡して、円満に和解が成立した。

一方、日本政府は新紙幣の更なる増産が見込まれていたことや、製造コストが高額に上ること、更に将来の先進国として自国の紙幣を国産化するという大方針の下で、明治7年3月14日付けで大隈重信大蔵卿から三条実美太政大臣あてに「紙幣製造機械御買揚 彫刻師御雇入ノ義ニ付伺」が提出され、この基本方針が了承されている。

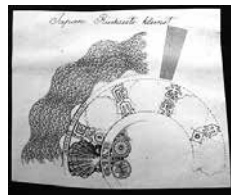
一方、キヨッソーネは単なる紙幣用の凹版彫刻技術者としてではなく、関連する製版技術、印刷機械等の知識と技術をマスターするために、結局通算約6年間にわたりナウマン社において研鑽を積み、またデラルー社で勤務した。この成果が生かされ、単なる凹版彫刻者ではなく、紙幣製造全体に関する総合的な知識と実務を有する「紙幣コンサルタント」的な人材として、日本の紙幣寮のために大いに貢献することとなったと言える。彼は祖国イタリアで実現できなかった紙幣製造に関する総合的なコンサルタントとしての職務を、新設された大蔵省紙幣寮（その後、名称変更となった紙幣局、印刷局）において見出し、生き甲斐を持って業務にあたり、また彼の後半の人生を全うしたと言える。また一方、明治新政府にとっても、単なる凹版彫刻師ではなく、紙幣製造に関する総合的な技術者として、得難い人材を確保できたのであった。



若い時期のキヨッソーネ



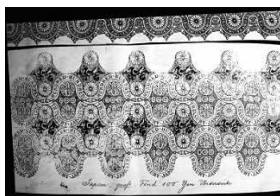
明治8年来日した頃の
キヨッソーネ



ドンドルフ・ナウマン社で制作した
「新紙幣」の裏面の図柄の印刷ブルーフ



新紙幣表面の「雙龍」の
凹版彫刻ブルーフ



新紙幣の地模様のエルヘート凸版ブルーフ



新紙幣百円券のブルーフ

（これらブルーフの出典：フランクフルト歴史博物館・所蔵）



当時の最新技術を導入した新紙幣（ゲルマン紙幣）とその拡大

ナウマン社は契約に基づき日本の「新紙幣」製造終了に伴い、紙幣製造に使用した版面類を日本政府に引き渡し、明治7(1974)年5月に大隈重信大蔵卿、吉田清成大蔵少輔の連名による三条実美太政大臣あての公文書において、「日耳曼国へ御注文紙幣製造用原版各種来着」の報告を行っている。これら新紙幣関連の原版類は、エルヘート凸版原版類21枚、クラッチ凹版原版類82枚、その他番号類65個、パトロ子原版86枚で、のちに日本国内での新紙幣増刷の際に使用された。また明治7年3月の大隈重信大蔵卿から三条実美太政大臣あての「諸紙幣公債証書類ノ製造ヲ取計度ク、外国ニテ右製造機械購求、職工雇入等ニ付キ相同」により上申したところ、7年4月29日にこの方針が裁可になり、これに基づき外国からの機械類購入や、お雇い外国人の雇用に関する求人活動が開始された。



紙幣寮に雇用された3人のお雇い外国人と佐田彫刻部長、降矢銀次郎

印刷技術者の雇用に関しては、大蔵省の囑託でもあった外務省の本間清雄書記官によるナウマン社との交渉の結果、凸版印刷技師に関してはブルーノ・リーベルス(Bruno Lirbers)、凹版印刷技師にはカール・アントン・ブリュック(Karl Anton Brück)が派遣されることとなり、彼らは明治7年12月に東京に到着した。凹版彫刻者には「新紙幣」の凹版彫刻を手掛けたキヨッソーネを採用する方針の基に、本間清雄がデラルー社に勤務していたキヨッソーネと面会し、雇用条件を提示して折衝、それが成功してキヨッソーネはイタリア経由で明治8年1月東京に到着している。紙幣寮では来日した3名の技術者との間では雇用条件などを取り決めた仮契約を締結し、明治8年3月には正式の命令書案を上申し、4月にそれが了承されている。新規採用となったお雇い外国人たちは、当初の期待通り紙幣製造体制に関する初期の体制確立に大いなる貢献を果たしたのであった。

第3代紙幣頭に得能良介就任と、紙幣国産化政策の促進

明治新政府の大蔵省には、明治4年に通貨関係業務を担当する役所として、硬貨を製造供給する造幣寮と、紙幣製造や銀行の監督などの行政事務を担当する紙幣寮が設置され、初代の紙幣頭には渋沢栄一が兼務で就任、その後明治5年6月から明治7年1月まで芳川顕正が選任された。芳川紙幣頭の後任には、かつて明治3年に大蔵権大丞として出納頭を勤め、渋沢栄一とトラブルを起こしたため、免職となったものの司法省司法少丞に復職していた得能良介が、当時としてはかなり高齢の50歳で紙幣頭兼大蔵大丞に就任した。得能良介は、明治初期の有能な若い官僚たちが、機会をとらえて次々と新官職に転職昇進し、また下野して新しい商売で活躍していくのに対し、旧薩摩藩出身の上司・大久保利通参議兼内務卿の支援もあった模様で、一途に紙幣国産化という重要な国策の実現に、その一生を捧げたのであった。

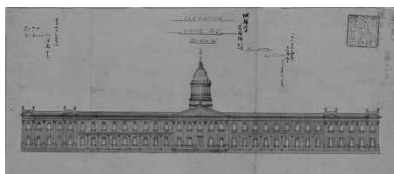
もちろん得能良介が紙幣頭に就任する以前から紙幣国産化の方針が決まっていたが、明治7年1月に彼が紙幣頭に就任すると、早速大隈重信大蔵卿に対して紙幣国産化の促進を具体化しよう強力に働きかけた。即ち、同年3月には、紙幣国産化に必要な機械設備の購入と、西欧の先進技術を伝授してくれる有能なお雇い外国人の雇用促進を求めて、大蔵卿から三条太政大臣への上申書提出を働きかけ、同年4月には「紙幣製造機械御買揚、彫刻師御雇入ノ儀」の具体的な方針が早速承認されている。得能良介はその基本方針に基づき、ナウマン社から「新紙幣」製造に使用した中古の機械類一式を購入し、また3人の技術者の採用実現に努力したのであった。



第3代紙幣頭に任命された得能良介



紙幣国産化の強力な後ろ盾となった大久保利通・参議・内務卿



紙幣寮建物の当初設計図(国立公文書館)



紙幣寮設計や作業手順策定等に尽力した矢嶋作郎・紙幣助



大手町に完成した紙幣局



朝陽閣の写真



凹版用の機械彫刻

また得能良介は、それらの機械類や技術指導を受けるための紙幣製造工場の建設を、厳しい財政状況の最中ではあったが、実力者の大久保利通・内務卿に強力に働きかけたと推定され、新しい紙幣印刷と用紙製造工場の建設に使命感を持って突き進んでいった。紙幣印刷工場建設に関しては、その機械配置や作業手順も含めて、かつてナウマン社において紙幣製造の監督業務に従事し、また作業方式などを熟知していた矢嶋作郎を紙幣寮七等出仕に起用した。それに応じて矢嶋作郎は、明治7年5月には、紙幣寮が新設予定の新工場の概略図を作成、その略解を添えて紙幣頭に提出したことが、「得能良介君伝」に記述されている。それによると、U字型の3階建ての建物に3部門（化学、彫刻、印刷部門）を収容する案であったが、その図面案は残されておらず、その提案に基づき修正された明治7年11月作成の2階建ての紙幣寮工場の完成図とフロアプランが国立公文書館に残されている。この素案は、当時政府のお雇い外国人建築家トーマス・ウオーター（Thomas Water）が作成したものであるが、彼の雇用期間が紙幣寮建設着手前に終了したため、別のお雇い外国人建築家C・ボワンヴィル（Charles Alfred Chastel de Boinville 1850-1897）に業務引き継ぎとなり、当初案にあった中央の塔を削除し2階建ての簡素な構造に修正された。実際に完成した紙幣工場は、正面玄関部分には大きな金色に輝く菊の御紋章を、またその屋根には高さが約2.5メートルの大型石造の鳳凰像を取り付けたもので、この建物は朝日に向かう鳳凰像を表したため「朝陽閣」と呼ばれた。矢嶋作郎は、明治7年11月27日付けの太政大臣三条実美による辞令で、紙幣寮の副長官に当たる「紙幣助」に任命されている。彼は当時のわが国では、全く未知の世界であった紙幣工場の建設計画に従事し、また紙幣の作業体制の構築に当たった。彼は明治9年まで紙幣寮で勤務したが、明治10年に大蔵省を退職して東京電燈会社（現在の東京電力の前身）を創設して社長となり、明治23年までその地位にあったほか、神戸や京都にも電灯会社を設立し、また英語教育普及のための学校を設立するなど、民業部門に進出して活躍した。

この新工場の建設に際しては、当時はまだ東京の中心部地域に紙幣工場用地を確保することが比較的容易であり、紙幣寮では明治7年5月に工場建設に関する具申を行い、明治8年2月には皇居に近い東京大手町2-3の内務省所管の土地8279坪を確保した。しかしながら工場建設の建築費用の確保は、政府の財政難から極めて難航し、やっと明治8年3月には工場建設に必要な石材などの資材を水路から陸揚げするための「寮揚場水門」の掘削工事を、明治8年5月には工場の建設に着手、明治9年10月に総煉瓦造り2階建ての工場を落成させている。明治7年段階では、既にナウマン社から購入した中古の紙幣印刷設備や、新規に外国から購入した機械設備類も東京に到着して倉庫に保管されていた。また明治8年当初からお雇い外国人の指導により、仮設工場において紙幣製造に関する製造の準備体制が採られていたが、念願の新工場の完成を待って、当時は東洋一の紙幣印刷工場の稼働体制が確立することとなった。その後明治10年11月には、明治天皇が新工場に行幸されるなど、明治初期には紙幣の製造発行は国家の威信をかけた大事業であったと言える。

得能良介による国立銀行制度の改革

明治7（1874）年に大蔵省紙幣寮の第3代目の紙幣頭に任命された得能良介の最初の大きな仕事は、国立銀行発行の紙幣の発行条件改訂であった。明治6年に発足した金貨兌換を前提とした民営の国立銀行による銀行券発行業務が上手く行かず、設立銀行数が僅か4行に過ぎず、しかも紙幣の発行残高も僅か6万円強と伸び悩み、銀行経営は厳しさを増していた。そのため、国立銀行経営者、特に東京に本店を置く第十五銀行の頭取渋沢栄一は、紙幣発行監督業務を担当する紙幣寮に対して、制度の変更を強く求めている。

紙幣寮としても、銀行券発行業務が不振で、日本の経済の発展が阻害されていたため、国立銀行側の要請を受け、従来の正貨による資本金保有と金兌換の銀行券発行の仕組みを変更して、金禄公債を資本金の8割まで認め、

また政府紙幣による兌換準備を認める制度改革を実行した。その結果、新制度による国立銀行設立参加が急増し、紙幣も多く発行され、景気の好転に寄ることとなった。



得能良介の肖像画



得能良介の銅像



大手町の印刷局（錦絵）

官員（月給制）を雇（日給制）に身分変更の画期的な改革

紙幣寮では、銀行の監督業務のほか、旧藩札と新紙幣との交換業務、紙幣発行など通貨行政のほか、新紙幣に「明治通宝」の題字を加刷する業務など、銀行券や政府紙幣に関する現業業務をも担当していた。これらの現業業務は、民間の第一銀行に全面的に業務委託しており、大蔵省紙幣寮の多くの官員たちは、主に紙幣印刷業務で紛失事故などがなく円滑に行われることを監督する業務を担当するだけで、作業員の採用や業務効率の管理、勤務管理などは全て銀行側の責務となっていた。そのため、官員たちは得能良介紙幣頭が任された紙幣国産化計画などには関心が薄く、作業員と一体となって業務を推進するという意識が乏しく、いわゆる「お役人」の監督中心の立場であり、管理者と現場の職員が一体となって、お雇い外国人の指導の下において、新技術を習得して業務を遂行するという雰囲気ではなかった。そのため、得能良介は大蔵省の承認のもとに、奏任官など僅かの紙幣寮幹部を除き、工場現場の官員をすべて「雇」に格下げして「職工」と同じ身分とし、更に明治8年にはこれらの職員の月給制を廃止して、職工と同じ日給制に変更するという大英断の組織改正を行った。但し、それだけでは官員たちの不満が発生する恐れがあったためか、雇の身分になっても、従来の給与を約2割増やすことを実行したため、官員たちはやむを得ず了承した模様である。但し「雇」になった結果、旧官員の出勤時間も従来の午前9時から職工同様に朝5時半となり、勤務時間も9時間となった。例えば文部省の8等出仕で舎蜜局長に出向して来た岸本一郎の場合、月俸70円が90円となったものの、身分は「雇」となったほか、彫刻部長の大属・佐田清次も本官を罷免され「雇」となったのである。

紙幣頭がなぜこのような当時としては大胆な人事政策を採用したかに関しては、管理者と現場の職員が、一体となって業務推進に当たる必要性が強かったほか、その裏には紙幣寮の経理制度との関連もあったと推定される。明治4年の紙幣寮の創設以降明治8年までは、大蔵省をはじめ各省庁に対して紙幣、公債証書、印紙類や郵便切手などを製造、納入した際には、その製造費用は発注先の省庁に対して徴収せず、もっぱら全て紙幣寮の負担であった。しかしながら、明治9年の作業条例により、紙幣などの製品の売り上げ収入を各省庁や銀行などから徴収し、製造に伴う人件費や材料費、設備投資等の費用支出は紙幣局が負担するという独立採算制に似た制度が採用されることが予定されていた。過去における国庫から支出された膨大な創業時の建物建設、機械設備費用や外国の製造委託した紙幣の費用も、操業が軌道に乗った段階で、逐次返済することとなり、効率的な業務運営を迫られることが予測されていた。そのため、職員はお役所仕事ではなく、官員、職工が一体となって会社組織のように、売り上げ増加に積極的に取り組むことが求められたためであったと考えられる。明治10年1月には紙幣寮は紙幣局に改称され、現業官庁としての官制改正が実行され、更に明治11年12月には印刷局に改称されている。なお、その後の経理状況を見ると、明治14年から22年までの印刷局の収入、支出、損益状況は、国内の紙幣、銀行券、印紙、切手、国債、活版印刷物などのを製造販売が順調であったことから、この9年間の類計では収入約1320万円、支出1215万円、益金105万円であり、創業時に国庫から支出された巨額の設備投資の費用も全て益金をもって償却済みとなっている。なお、明治14年には管理部門である本局の判任官以下の官員についても工場職員並みに日給制を採用している。

しかしながら、明治16年末に得能局長が死去した後の明治18年には、この厳しい身分制度や俸給制度は修正され、他の省庁並みに各部の部長や次長は技師に、課長級は技手に、雇では工師、工手、工生に改められ、更に明治23年には雇の日給制を月給制に戻している。明治28年には奏任官2名、判任官87名、雇257名、工員

1358 名、臨時工 339 名、合計 1940 名を擁するアジア第一の近代的な大印刷局となったのである。大転換を指揮した得能良介は、その一生を、世界に誇る紙幣や銀行券の国産工場や高品質の紙幣に仕上げるという強い意志を持ち、明治初期には各種の斬新な政策を断行し、明治 15 年には局長・大書記官から「技監」に昇任したが、明治 16 年 12 月には現職のまま 59 歳で逝去している。

工場近代化のために、外国製の機械類を大量に購入

得能良介紙幣頭は、日本の古来の銅版印刷技術から決別して、西歐式の製版、印刷技術を早急に導入するために、技術革新の妨げとなる恐れがある官省札等の銅版彫刻者で、当時紙幣寮雇用となっていた松田敦朝や梅村翠山を解雇することを決定し、本人からの辞表を受け取り、新任の外国人彫刻師が自由に腕を振るえるような環境を整備した。

また明治 7 年 3 月 14 日付けの決裁文書「紙幣製造機械御買揚彫刻師雇入ノ儀」に基づき、紙幣製造に必要な機械類を積極的に購入していった。外国の機械メーカーとの購入折衝は、新紙幣の契約等に従事したベテランの外務省の本間清雄書記官が担当し、緊密な電信連絡によってクイルシャール筋引機、パントグラフ縮図機、二重押印機械 2 台、単一押印機械 4 台、電胎槽アパレート 1 揃、断裁機、インキ練肉臼、光沢ローリング器、銅版押印機 4 個、上記運転機械 30 馬力などを、相次いで欧州のメーカーから調達している。その役割を担った本間清雄 (1843～1923) は掛川の医師の家に生まれ、ジョセフ・ヒコが日本で創刊した新聞の編集を手伝った後、ヘボンの下で英語を学び、明治 3 年に訪欧した後に外交官となった。彼はプロシア、オーストリアに勤務、明治 5 年には 3 等書記官としてナウマン社への新紙幣発注契約に立ち会ったほか、明治 7 年には在フランクフルト公使館の書記官、オーストリア大使館に勤務、最後は外務省の人事課長を務めている。当時彼は蔵省の新しい業務や機械類をよく知っていたため、ナウマン社の中古機械の購入折衝や、お雇い外国人の雇用に関する折衝のほか、紙幣寮が欧州各国から購入する各種の機械類の折衝に当たるなど、紙幣国産化の影で大活躍した外交官であった。

また紙幣寮での業務遂行に貢献した影の立役者の成瀬常一は、来日後のキヨッソーネ専属の通訳として、凹版彫刻技術や機械類の操作説明の際の通訳や、関西地方への得能良介一行の視察団に参加してその役割を果たした。彼は幕府の士族出身であり、江戸幕府がフランスと提携し建設を予定した横須賀製鉄所（後に造船所）において、幕府の家臣たちに技術伝習を受けさせる際の通訳を養成する目的で設立した「フランス語伝習所」の生徒であったとみられる。幕府は元治 2 年 3 月に伝習所を開設し、レオン・ロッシュ校長のほか 5 人のフランス人教師を配置し、生徒には幕府士族の子弟を募集して慶応元年に開校した。その際の生徒には小栗上野介、明治新政府で外交官となった吉田要作、成瀬常一など 47 名の生徒がいたが、幕府の崩壊で間もなく閉校となったのであった。

しかし成瀬常一は、フランス語を習っていたために、お雇い外国人として採用したキヨッソーネがイタリア語のほかに、フランス語も話せる人材であったため、紙幣寮の通訳として採用された。そしてキヨッソーネが担当した凹版彫刻や製版方法など、技術的な指導の際の通訳を務めたほか、キヨッソーネの私生活面でも大いに貢献したのであった。彼は東京府旧士族の身分で、しかも麹町平河町に 180 坪 (600 m²) の屋敷を所有していたため、キヨッソーネの官舎として提供、彼が印刷局を退職した後には、その住居として提供したほか、私生活面でも親身に援助した。キヨッソーネの死に際しは、その遺産の一部を贈与され、またキヨッソーネ死去の際の公告や葬儀の公示でも、友人代表に名を連ねているほど、関係の深い人材であった。40 歳の中年で来日したキヨッソーネは、日本語をマスターできなかったのも、通訳官の成瀬が親身になって面倒を見たため、西欧の紙幣関連の技術伝承が可能になったほか、美術品の収集にも専念できたとも言われ、紙幣国産化の影の功績者となっている。



平河町のキヨッソーネ邸での印刷局関係者、右から 2 人目が通訳の成瀬常一

技術者育成のために教育設備の充実

得能紙幣頭は、まだ明治初期には技術を教える大学や専門学校が存在しなかったため、印刷局独自の技術者養成を考え、お雇い外国人から各専門分野での組織的な教育を受けさせ、また局内に幼年職工の教育のために、幼年学場や画学図学の学場の創設、海外留学制度を導入するなど、技術者養成のための教育を行った。また、将来の紙幣用デザインに役立つと考え、明治12年5月から9月までの間、得能良介はキヨッソーネら紙幣寮の職員一行12名と共に、主として伊勢、奈良、京都などの伊勢神宮、正倉院、多くの寺社などを訪問して古美術調査を行い、風景や寺社の建物、宝物や書画等を写真に撮影したが、その成果は多色刷石版印刷を用いた「国華余芳」の出版として実を結んだほか、後日紙幣、銀行券の図柄にも多く採用されるという効果をもたらした。なお、この巡回によりキヨッソーネは、日本の優れた古美術に対する関心を深めたほか、日本の古画、骨董を収集するようになり、その成果が現在でもイタリア・ジェノバの東洋美術館に収蔵されている。

そのほか、印刷局の独立採算制度を維持するために、優れた印刷局製の洋紙を世界各国に販売し、あるいは豪華な金唐革紙の製造販売、外国紙幣の製造受託などを手掛け、また政府の使用する各種の印刷物を印刷局の活版部で集中して製造受託する方針を促進したのであった。

最新技術を導入するためにお雇い外国人の雇用

東洋一の印刷局を目指して、当時の西欧諸国における最新の紙幣や印刷技術を吸収するために、紙幣寮から名称を変えた紙幣局、印刷局では、積極的に専門職の外国人を採用して、その技術を職員に吸収させるよう努力を行った。明治初期にはまだ科学や技術を教える専門学校は少なかったため、直接外国人の教師を採用して技術習得をする以外に方法はなかったのである。もちろん、得能紙幣頭が就任する以前から、日本の各分野では、積極的にお雇い外国人を採用して外国の最新技術を吸収しているが、印刷局も同様であり、次表のように当時としては破格の待遇で外国人技術者を雇用し、直接関連する紙幣関連の技術ばかりではなく、関連する写真術、石版印刷技法など、その先進技術を吸収して、その新技術を紙幣や銀行券、そのほかの製品に応用したのであった。明治初期における印刷局関連のお雇い外国人は次表のとおりであった。

専門技術等	氏名(国籍)	雇用期間	月給等の待遇	備考
製本術、活版印刷	パターソン(英)	明治6～8年	月給220円	印書局採用を引継
石版印刷術	ポラールド(米)	明治9～11	月給700～825円	多色刷石版印刷法
インキ、錬肉術	アンチセル(米)	明治7～9年	年俸8000円	北海道開拓使より
ドイツ語	プロモヴィッチ(独)	明治7～9年	月給100円	ドイツ人技師対応
銀行簿記、幣制	シャンド(英)	明治7～8年	月給500円	理財局に移管
凹版印刷	ブリュック(独)	明治7～13年	200円、宿舍提供	日本で死去
凸版印刷	リーベルス(独)	明治7～10年	200円、宿舍提供	2年間で帰郷
凹版彫刻技法等	キヨッソーネ(伊)	明治8～24年	月給450～700円	日本で死去
写真術	スチルフリード(奥)	明治11～12年	不明	写真部門の充実

もちろんこれらのお雇い外国人たちに待遇は、当時の日本の官吏や職員と比べると一段と高待遇であるが、明治新政府としては高いコストを払っても、日本の近代化には不可欠な代価であるとして、役立つ外国人技術者たちを歓迎したのであった。ちなみに明治初期の奏任官であった得能紙幣局長の月収は215円、低賃金と言われた印刷局雇の職員の平均月収は37円、職工は月収8円程度であったのに比べると、圧倒的に高額であったことが分かる。

最初にお雇い外国人となったアンチセルは、元は北海道開拓使に科学者として雇用されており、その間、紙幣寮ではインキに関する技術指導を受けていた。しかし、彼が帰国するという話を聞いて、急遽紙幣寮に採用を働きかけ、それに成功した。アンチセルは自らがアメリカで特許を取得したセキュリティ・インキの情報を紙幣寮に提供したの

であった。また紙幣など証券印刷に不可欠なインキの技術を伝承し、特に偽造防止対策が必要な特秘薬の開発に貢献したのであった。



凹版技術者ブリュック



凸版技術者リーベルス



青山墓地のブリュックの墓



化学者アンチセル

紙幣用紙の技術導入は「お雇い内国人」の貢献で

一方、紙幣用紙に関しては、ドイツで製造された「新紙幣（ゲルマン紙幣）」は、エルハート凸版印刷技法を用い、その精緻な地模様や、高額券での鳳凰や双龍などのシャープな凹版画線を用いた優れた紙幣であったため、世間の評価は極めて高かった。しかしながら、紙幣用紙の素材は、主に亜麻であったため、藩札のように楮を素材とした丈夫な紙質と比べると極めて脆弱で、紙幣の折れ目から縦に破れやすく、損傷券が多発し問題となっていた。そのため、紙幣用紙に関しては日本古来の和紙の伝統がある丈夫な国産紙を採用する方針が確定し、そのための製紙工場の設立が急務となっていた。

得能紙幣頭は明治8年3月に、東京府下王子村に建設されていた民間の王子抄紙会社の構内に、紙幣用紙抄造のための「手漉場建設の儀」を上申し、同年3月18日には大蔵卿の裁可を得て、19日付けで抄紙会社に請書を提出、会社側の了解を得て手漉き用紙工場を完成させている。当初紙幣寮では地券用紙等のほかに、紙幣用紙についても外注方針を持っていたが、紙幣用紙の偽造防止上の安全性を確保するために、当初の外注化方針を変更して、直営の製紙工場を建設することとなった。そのため、紙幣寮の渡辺弘・権頭が故郷の越前和紙の生産地・岡本村に帰郷した際に、加藤賀門（河内）、岩野源三郎など、越前和紙の紙漉業者や職工を数名採用し、更に太政官札の紙漉き職人の経験を持つ越前・岡本村出身の職工たちの採用の手筈を整えたのであった。

紙幣の印刷技術導入とは異なり、紙幣用紙に関しては、言わば「お雇い内国人」である国内の優れた和紙の紙漉き職人とその技術を積極的に採用し、紙幣用紙製造体制を確立したのであった。明治8年10月には正院の裁可を得て製紙工場建設に着手し、明治9年2月には関連する機械器具類を備え、手漉き法を用いて紙幣用紙を製造する製紙工場が落成、4月にはその第1号の用紙を送り出している。その後、抄紙会社や周辺の地主から敷地を買収して工場や関連施設を拡張した。明治9年4月には抄紙局（明治10年1月に抄紙部に改称）の開業となり、大隈重信大蔵卿、松方正義大蔵大輔等を迎えて得能良介紙幣頭、矢嶋作郎紙幣助により開業式を開催した。更に、同月桜の名所・飛鳥山を訪れた明治天皇ご一行は、紙幣寮の抄紙局や、王子抄紙会社をご視察され、得能紙幣頭のほか、矢嶋作郎紙幣助、中村祐興抄紙局長が工場をご案内、行幸記念に工場で抄造した用紙を献上している。その後抄紙部では、紙幣用紙のほかに政府関連の各種証紙や印刷物用紙を製造する必要性が高まり、更に抄紙会社の土地を追加購入したほか、近隣の地主からも用地を取得し、更に外国から輸入した抄紙機械を稼働させて各種の用紙の製造を開始した。

しかしながら、当時の製紙技術では紙幣用紙の機械抄造は困難であり、そのため多くの紙漉き職人を採用して手漉き方式での用紙製造が行われた。国立銀行紙幣（新券）用紙の場合、当初の素材構成は、雁皮80%、みつまた20%であったが、長繊維のため用紙に起毛現象が発生して、これを防ぐために光沢刷機を用いたものの、当初段階では紙幣用紙の製造は困難を極めた。そのため、紙幣関連知識に詳しいキヨッソーネの適切な技術指導もあり、わが国で普及していた流漉法ではなく、西欧諸国で採用していた「溜漉法」を用いた紙幣用紙製造方法に切り替えると共に、日本古来の漉き桁の上に漉簀の紗を貼る方式ではなく、欧米で採用されていた金網製の抄網を用い、また用紙の素材も人工栽培が可能な、短繊維の「みつまた」を多く使用、当初みつまた30%、雁皮紙70%を採用したが、やがてみつまた100%とした。

紙幣用紙の抄造に関しては、越前岡本村の有力な紙漉き職人集団を束ねていた加藤河内が大勢の紙漉き女工を引き連れ上京し、溜抄法に適した材料加工方法の選択、繊維を細かくするための叩解作業などの技術指導に当たった。更に、人工栽培が可能な、短繊維で抄入れ適性の良い「みつまた」を多く使用することで、丈夫で印刷適性が良好な紙幣用紙の製造体制が確立したのであった。

偽造防止対策上不可欠な紙幣用紙の「透かし」の技術に関しても、研究開発が進み、明治14年の神功皇后の肖像を描いた改造紙幣五円券には、白透かしによる蜻蛉や桜花の模様を漉き入れ、更に明治18年の兌換銀券（大黒札）旧拾円券では、白透かしと黒透かしを採用。その後透かしの技術が向上して、精緻でシャープな白黒透かしの技術「秘訣法」を確立することに成功、やがて明治24年発行の改造兌換銀行券百円券では、画期的な白黒透かしの採用に成功している。



完成した王子の抄紙部



中村祐興・抄紙部長



飛鳥山から王子製紙会社を望む錦絵



明治天皇が飛鳥山に行幸された際背景に描かれた紙幣寮抄紙工場(錦絵)



王子村に完成した抄紙部の建物



越前岡本村出身の紙幣用紙技師の加藤河内



東京府下王子村の製紙工場風景



西欧諸国で使用されていた「溜漉法」



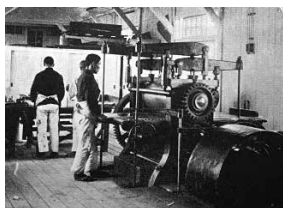
抄紙部の手抄き作業場



みつまた皮の処理作業



手漉紙の圧搾機



手漉紙の光沢付け機



紙幣用紙にみつまたを100%使用し、白透かしを用いた兌換銀券旧壹円券とその白透かし



印刷局におけるキヨッソーネ最初の「国立銀行紙幣・新券」の凹版彫刻

明治8年1月に紙幣寮に着任したキヨッソーネは、まだ朝陽閣が建設中であつたため、仮工場において紙幣寮が必要とした各種の証券類、証紙などの凹版彫刻や、エルヘート凸版模様の彫刻作業に従事し、連日の残業のほか、

殆ど休日も返上して精力的に仕事に従事し、得能紙幣頭のほか、関係職員の尊敬を集めた。彼が来日後の7年間に紙幣寮で手掛けた紙幣、銀行券をはじめ主な証券類は、次のようなものであった。

年度	紙幣、銀行券	印紙、切手類の区分	その他の製品
明治 8 年		煙草帯印紙、煙草角印紙	地検状原版、煙草鑑札
明治 9 年		改正郵便切手(小判切手) 原版、改正蚕種印紙原版、改正郵便葉書、司菜場印紙原版	郵便封皮、頒曆証原版、金禄公債証書
明治 10 年	国立銀行紙幣(新券) 壹円券(水兵札)	郵便切手高額券種原版、郵便葉書、郵便切手1種類原版	
明治 11 年	国立銀行紙幣(新券) 五円券(鍛冶屋札)、新紙幣壹円券(神功皇后札)	起業公債証書原版	勲章年金証原版
明治 12 年		万国郵便連合葉書、郵便切手、定時刊行物印紙原版、	銅版画原版(大久保利通像)、富岡製糸場符票、横浜正金銀行株券原版
明治 14 年	新紙幣五円券、新紙幣 20 銭券	麹酒類製造免許鑑札、大蔵省国 際局為替券、在外公館為替券	銅版画原版(三条実美像)
明治 15 年	新紙幣 50 銭券、新紙幣拾円券	売葉印紙、改正証券印紙	改正頒曆証原版

キヨッソーネが来日後に初めて手掛けた最初の紙幣は、国立銀行紙幣(新券)であり、これは国立銀行における銀行券発行制度の変更に伴ったもので、急遽製造することとなったほか、併せて新しい改造紙幣「神功皇后札」の製造発行に伴い、彫刻の時間が不足したため、キヨッソーネの友人で明治9年来日した工部美術学校の彫刻部門教師であったイタリア人・お雇い外国人ラグーザ(Vincenzo Ragusa 1841-1927)の手を借りて、国立銀行紙幣裏面の「恵比寿像」を凹版彫刻してもらったと伝えられている。ラグーザは故郷のパレルモで素描や凹版彫刻を学んだ模様であり、紙幣の裏面を子細に観察すると、確かに凹版彫刻画線の構成や、その彫刻方法が若干キヨッソーネとは異なることが分かる。

国立銀行紙幣(新券)壹円札の原版製造に関しては、まだキヨッソーネの教えを吸収できる日本人の彫刻師は育っていなかったため、彼自らが水兵たちの姿のほか、エルヘート凸版による地模様(「壹」や「圓」)の図柄、額面金額表示や彩紋模様などすべてを一人で手掛けたとみられる。彼は当時、新紙幣(神功皇后札)の凹版彫刻にも携わっていたため、やむを得ず裏面の恵比寿像の彫刻を委託した模様である。彼はイタリアの彫像学校在学中にデッサンや銅版画なども学んだと言われており、キヨッソーネの彫刻には劣るが、その恵比寿像もそれなりの銅版彫刻の完成度となっている。壹円券に続き、翌年度には五円券が製造発行されたが、表面の「鍛冶屋」の作業風景はキヨッソーネが、また裏面の恵比寿像も壹円券とは少し形状を変えたもので、はっきりした記録はないものの、印刷局史等によると、ラグーザが凹版彫刻したと記述されている。



国立銀行紙幣(新券) 壹円券の表裏



国立銀行紙幣(新券) 五円券の表裏

エルヘート凸版による
壹円券の地紋模様

壹円券の菊章、勲章の図柄

壹円券裏の
レリーフ印刷の文字

この国立銀行紙幣（新券）は、当初弍拾円までの数券種を発行する予定であったが、当面壹円と五円券の発行となった。その図柄に関しては明治10年4月24日付けの大隈重信大蔵卿の代理として、松方正義大蔵大輔から岩倉具視右大臣宛てに、明治天皇が御親佩の勲章を券面に印刷することを上申し、その結果「大勲位菊花大綬章」の図柄が、菊の御紋章の下に描かれ、銀行の安寧堅固を祝す図柄となっている。券面には、支払い文言、紙幣発行の根拠法令、紙幣発行の引当として公債証書を大蔵省出納局に預けている旨の標記、更に偽造禁止と処罰文言を記述し、大蔵卿の印章を印刷している。また中央上部の菊章の右脇には名誉を表す「桂」、左には堅実を表す「樫」の枝が描かれている。そのほか、壹円券の場合は、明治政府の「富国強兵」政策を反映して、船舶の舵を操作する二人の水兵を描いているが、納期に追われたためか、彫刻されている水兵の姿などの図柄や構図等は、五円の鍛冶屋札、改造紙幣の神功皇后札と比べると、やや簡略化された公算が高い。

壹円券の輪郭枠内の地模様にはエルハート凸版方式による同一書体の「壹」「圓」「ONE」「YEN」の連続模様が、全面的に採用されており、また水兵たちの図柄、中央上部の菊章、樫と桂、大勲位菊花大綬章の図柄、その両脇の観音崎燈台や荷役作業の光景は、淡い凹版画線により印刷され、また額面「壹円」や左下部分の偽造処罰文言は、白抜きの文字を残しべったりと黒色凹版で印刷されている。人物像に関しては、流れるような凹版画線で彫刻され、顔の部分などはラフな点線で表現している。なお、大蔵卿印や記録局長印、記番号、発券銀行の名称と頭取、紙幣人の名称は凸版加刷印刷で、また印章は朱肉での押印である。

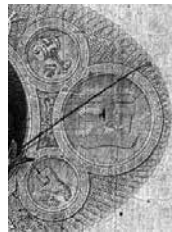
裏面の恵比寿像の図柄は凹版単色印刷で、竹の模様付きの円形内の「壹」と、潜像文字「E」が組み合わさった「IYEN」の文字は、レリーフ模様で印刷され、表面には地模様は印刷されていない。国立銀行紙幣に恵比寿像が採用された理由は、明治10年2月19日付けの得能紙幣局長から大隈重信大蔵卿宛ての「銀行紙幣製造之儀ニ付伺」によると、裏面に採用の「蛭子神」（恵比寿）は、「銀行営業上ニ相当之神影」とし、参考資料として「恵美須ノ事」と題して、「推古天皇九年市ヲ始メ蛭児神ヲ以テ商売鎮護神トス後世恵美須ヲ福德神トスルハ之レヨリ始マル」とし、摂津西宮祭神の一人であると解説している。そのため、本来は漁業神である恵比寿を表す釣竿や鯛を描くとともに、商業神であることを示す算盤、大福帳、硯や筆の図柄を追加して描いている。



恵比寿像とその拡大図



恵比寿像を凹版彫刻したラグーザ 宝尽しのレリーフ模様



五円券裏面の紙幣寮の遠景

五円券に関しても、「銀行紙幣製造之儀ニ付伺」によると、「殖産興業」政策を反映し、当時の工業を代表するものとして、鍛冶屋の作業を選び、3人の鍛冶職人の作業を描いている。多分この作業風景は実際の作業状況を写真撮影して、それを基に凹版彫刻したものと考えられる。全体的に見ると作業を行う3人の姿や作業場の背景も、水兵札よりも緻密に立体感をもって凹版彫刻されており、凹版画線もシャープさがある。更に遠景には、「殖産興業」政策を反映して、近代的な煉瓦造りの建物の上に、煙を吐く煙突や屋根の上に立つ彫像が描かれているが、これらは明治9年10月に竣工した紙幣寮の朝陽閣の建物であり、先述の伺い書の中で得能紙幣頭が「当局工場之写真ヲ彫刻致シ」と記述している。また裏面の恵比寿座像は壹円券とほぼ同じであるが、釣竿と鯛の図柄の位置が若干変化しているほか、商業神の特徴を明確にするために、座像の周囲には宝尽しの代表として「大判小判」「打出の子鎚」「金庫の鍵」「絹反物」の図柄が、両脇のレリーフ模様の「五」「五」の数字と共に印刷されている。

同時並行で製造を進めた好評だった改造紙幣（神功皇后札）

ドイツ製の新紙幣（ゲルマン紙幣）は、確かに微細な図柄を用いた優れた紙幣であったが、用紙の材料に亜麻を使用した機械抄き用紙であるため、用紙の流れ方向に脆弱で、縦の折れ目から破れる紙幣が続出、損券との交換が多く発生し、大量の補てんが必要であった。また、2券種が同じサイズであったため、額面金額を書き換えた

偽造が発生したほか、世間を騒がせた「ゲルマン紙幣偽造事件」が発生するなど、新しい紙幣への切り替え発行が求められていた。

そのため、明治10年2月17日付けで、紙幣発行関係事務を担当する得能良介紙幣局長から大隈重信大蔵卿宛てに、「紙幣改造方法之儀ニ付伺」の文書が出され、恐らくお雇い外国人彫刻師キヨッソーネのアドバイスもあった模様で、その上申書の中で偽造防止の決め手は、紙幣に人物肖像の凹版彫刻を採用することであり、諸外国でも国王や大統領などの肖像写真の鑄入が行われていることを力説している。本来は君主である天皇のご肖像を採用すべきであるが、明治天皇は写真嫌いで、自分の肖像を紙幣や硬貨に採用することに対して絶対拒否されることは、造幣局発行の硬貨に採用を申請した件で拒否されたことから、君主の肖像採用は不可能であると承知していた模様である。そのため、伺書では、皇国貨幣の濫觴は日本書紀中に「神功皇后摂政之時ニ当リ三韓ヨリ金銀ヲ貢納スルノ明文有之候間金銀ノ貴重スベキヲ了知スルノ徴證ト考候因テ古書ニ因尊影ヲ想像模写シ——」と、その肖像採用の根拠を述べており、説明文書を添えて明治10年4月13日に大蔵卿から岩倉右大臣宛てに申請、同年4月4日には参議、大臣の決裁を経て、天皇の御裁可を仰いでいる。その際上申過程で、明治天皇の肖像採用の意見も出されたが、天皇自らが神功皇后肖像の採用を決められ、改造紙幣「神功皇后札」が製造発行されることとなった。彫刻師キヨッソーネとしては、その優れた肖像彫刻のチャンスが到来したことであり、各種の文献を調査し、また当時考古学等に詳しい学者等権威のある専門家の意見も聴取して、神功皇后の構想を固め、またモデルとして紙幣局勤務の女性職員の写真を元に、全精力を傾注してのコンテ画を作成、凹版彫刻に臨んだと思われる。印刷局の博物館には、当時キヨッソーネが参考にしたと思われる女性工員の肖像写真のガラス板から現像した青写真が何枚か残されている。キヨッソーネは、国立銀行紙幣（新券）の彫刻よりも、改造紙幣の肖像彫刻に全精力を傾注したと思われ、その肖像彫刻の彫刻画線の構成や彫り方にも力が入っている。

明治14年に発行された神功皇后の肖像の改造紙幣壹円券は、彼が待ち望んだ人物肖像を大きく描いた図柄であり、写真主義者のキヨッソーネは、紙幣局に勤務する女性職員をモデルとし、神功皇后のイメージに合うような高貴で気品のある女性像を凹版彫刻したのであった。しかしながら、西洋人であるキヨッソーネの彫刻した肖像は、やや日本人離れした顔立ちであるという風評もあり、次年度の五円券では若干肖像を修正し、日本人らしい容貌に変更したが、最終的には明治16年発行の拾円券において、日本人の高貴な女性のイメージを実現している。

肖像部分の凹版彫刻は、いずれも細めの流れるような点線の連続画線で、軟らかく顔の立体感を表現しており、高額券になるほど凹版点線のドットの形状が細くなり、目や鼻、口部分の表現では立体感や緊張感を少なくして、軟らかな点線画線を使ってソフトな容貌に彫り上げているのが特徴であり、女性の肖像彫刻の最高傑作といえる作品である。壹円券の場合は、まだ日本人の凹版彫刻師が育っていなかったためか、キヨッソーネが肖像ばかりではなく、輪郭枠や大蔵卿の印章までも、全て彼が手がけた模様であり、各凹版部分には切れ目が見られない。なお、五円券では各凹版パーツが分離していることから、キヨッソーネだけではなく、日本人の彫刻者も分担して彫り上げ、それを原版に合成したと考えられる。なお、五円券では、日本の紙幣では初めての白透かし技法を用いて、トンボと桜花の模様を左部分の上下に採用している。



改造紙幣壹円券の表面



壹円券の凹版肖像



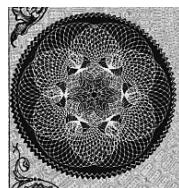
大蔵卿の印章



五円券の表面

エルヘート凸版による
五円券の地模様五円券裏面中央の
レリーフ模様五円券のトンボと
桜花の白透かし模様

小額紙幣五拾銭券



白彩紋模様



拾円券の表面



拾円券の神功皇后像



モデルとなった印刷局の女性職員



相次ぐ紙幣改造により雇用期間が延びたキヨッソーネ

キヨッソーネの当初の雇用期間は3年であったが、凹版彫刻技術の後継者育成には時間がかかり、また予期しない紙幣、銀行券の改造等が続いたため、結果的に7回も雇用契約を更新し、通算17年間で、彼はお雇い外国人として印刷局に勤務することとなったのであった。

契約	契約期間	年数	月給	紙幣等の主な製品の「原版完成」時期
第1回	明治8年1月14日～ 11年1月13日	3年間	月給454円 宿舎貸与	明治10年9月 国立銀行紙幣(新券) 壹円券
第2回	明治11年～14年	3年間	月給460円 明治13年6月 勲4等旭日章	明治11年3月 国立銀行紙幣(新券) 五円券 明治11年10月 改造紙幣(神功皇后札) 壹円券 明治12年6月 大久保利通公銅版画
第3回	明治14年～明治17年	3年間	月給730円	明治14年4月 三条実美公銅版画 明治14年7月 改造紙幣(神功皇后札) 五円券 明治15年10月 改造紙幣(神功皇后札) 拾円券
第4回	明治17年～明治20年	3年間	同上	明治17年11月 兌換銀券(大黒札) 旧拾円券 明治18年5月 兌換銀券(大黒札) 旧百円券 明治18年7月 兌換銀券(大黒札) 旧壹円券 明治18年10月 兌換銀券(大黒札) 旧五円券
第5回	明治20年～明治23年	3年間	月給500円	明治20年8月 木戸孝允公銅版画 明治21年9月 兌換銀券(菅原道真) 改造五円券 明治21年12月 兌換銀券(武内宿禰) 改造壹円券 明治22年8月 兌換銀券(和気清麻呂) 改造拾円券 明治22年12月 岩倉具視公銅版画
第6回	明治23年～ 明治24年1月	1年間	月給500円 勲3等瑞宝章	明治24年7月 兌換銀券(藤原鎌足) 改造百円券
第7回	～明治24年6月	6か月	年金1000円	明治21年1月 明治天皇の御軍装銅版画の彫刻御下命

日本銀行の創設と兌換銀券「大黒札」の製造

明治10年に勃発した西南戦争による通貨インフレに直面して、当時の大蔵卿・松方正義はデフレ政策を採用し、明治16年には、通貨に関しては金銀貨などの正貨の裏付けのない当時の政府紙幣や、国立銀行(新券)の発行を止め、わが国唯一の兌換銀行券を発行する中央銀行を設立して通貨インフレを抑制する施策について、明治天皇の裁可を得た。その結果、好評であった神功皇后の肖像を採用した改造紙幣の製造は中止となり、明治15年に日本銀行条例を布告して日本銀行が開業し、明治17年には兌換銀行券条例を公布した。その結果、新たに銀兌換の日本銀行兌換銀券を発行することとなり、明治18年から19年にかけて、「大黒天」の図柄を描いた壹円、百円、拾円、五円の各券種が、相次いで発行された。これらの銀行券は、同じ大黒天の肖像を使用していたため、従来の紙幣に比べて肖像の版面を流用できるため、比較的早期に新券の4券種を凹版彫刻し、印刷、発行することができた。大黒天は商業神であり、従来の恵比寿像に関連して採用されたもので、彫刻は従来の紙幣同様にベテランのキヨッソーネが担当した。大黒天の図柄は広く知られているため、考証に要する時間が不必要であったが、キヨッソーネは大黒天の肖像のモデルとなる人物を、同じ印刷局工芸部門の書家・平林由松としたと言われている。この大黒札は、当時フランス銀行券などで採用されていた写真製版による偽造が困難であった淡い水色のインキを用いて印刷されている。また図柄を引き立たせるために、紙幣用紙を漂白しているが、それによる用紙の劣化を防ぐため、紙層中に強化剤としてのこんにゃくの粉を混ぜていた。更に偽造防止対策として各券種に白や黒透かしが抄き入れられ、例えば拾円券の場合は、券面に黒透かしで「宝珠」「宝鍵」「分胴」「巻物」「打出の小鎚」などが抄き入れ

られ、下部には黒透かしの中に白透かしで「日本銀行券」の文字と桜花が採用されている。紙幣用紙の素材はみつまた 100% で、金網製の漉き網を用い、溜め抄き法で抄造している。

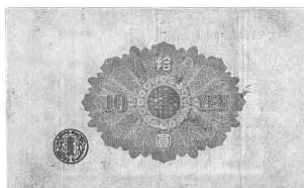
そのほか印刷面の偽造防止対策としては、太陽と光線を暗示させる放射線状のマイクロ文字を用いた大きさが変化する図柄を採用し、印刷インキの顔料には通常の状態では色変化しないコバルトや銅の酸化物の緑青、体質顔料には鉛白が使用されていた。

図柄の面では、各券種の大黒天の座像は殆ど同じ版面を流用しているが、俵の傍の 3 匹の鼠の位置は、裏面に大黒天が印刷された五円券だけは別の構図となっている。

しかしながらこの大黒札は、発行まもなく欠陥が見つかり、早急に新しい銀行券に取り換える必要が生じた。即ち、用紙中に混入したコンニャクの澱粉の粉は、筆筒などに保管中に虫食いに会い、またこの大黒札を温泉などに持参すると、インキの体質顔料中の鉛白と温泉の硫黄分が化学反応を起こし、黒変するという欠陥が発生したのであった。そのため、キヨッソーネは新しく発行することとなった兌換銀券改造券の肖像彫刻のために、その雇用期間を再延長することとなったのであった。



大黒札拾円券の表面

放射線状の
マイクロ文字印刷

白彩紋を用いた裏面



大黒天の像

菊章がなくなり、英文による
銀兌換文言が印刷された百円券

拾円券の透かし模様

本格的な肖像を採用した改造兌換銀券での手腕発揮

大黒札の欠陥が明らかになったため、政府、日本銀行は新しいシリーズの「改造兌換銀券」を発行することとなり、明治 20 年 7 月 29 日付けで松方正義大蔵大臣は原案をまとめ、同年 8 月 2 日付けで内閣総理大臣伊藤博文の名前で、「大蔵大臣請議兌換銀券人像描出ノ件」を閣議請議し、明治天皇の御裁可を仰いだ上で、閣議決定を行った。この決定はその後終戦までの日本の銀行券に使用する肖像人物を決定するものであった。

この閣議決定では 7 券種の銀行券を発行する予定で、7 人の人物が選定されたが、いずれも神話や古代において、天皇制を擁護した人物たちであった。当面は 4 券種発行のため、武内宿禰、藤原鎌足、和氣清麻呂、菅原道真が選ばれ、紙幣肖像彫刻のベテラン・キヨッソーネに対して肖像彫刻を依頼するとともに、雇用期間を更に延長したのであった。

兌換銀券改造券の第 1 陣は五円券で、閣議決定で定められた 7 人の人物の中から、明治 21 年 12 月 3 日発行の「五円券」(通称は「分銅五円札」)には菅原道真の肖像が選ばれた。凹版原版の完成は明治 21 年 9 月 14 日で、発行は同年 12 月 3 日であった。この肖像彫刻に際してキヨッソーネは、京都北野神社や九州太宰府など、各地の菅原道真を祀る神社の聖像や各種の関連資料を調査検討するなど考証を行い、また当時東京美術学校の講師で、正倉院御物などの整理を担当していた専門家・黒川真頼の意見を聞き、人物肖像彫刻の構想を重ねたと言われている。キヨッソーネが肖像の凹版彫刻を行うに際しては、何らかの形でモデルが不可欠であったため、明治維新の元勳・参議の木戸孝允または上司であった彫刻部長の佐田清次を選び、その写真を元にデッサン、コンテ画の制作、凹版彫刻を行った模様である。肖像は楕円形の輪郭枠内に、細かな点線を主体とした画線構成で、ソフトなタッチの肖像を彫り上げているが、その表情は大宰府に流された悲しみからか、やや悲しそうな表情となっている。その肖

像の上下には、彼にちなんだ梅鉢紋が配置されている。また肖像の左には、富の象徴であり、秤で金銀の重さを測る際の錘である「分銅」型の輪郭模様の中に、梅鉢模様や唐草の花弁を描いている。なお、この五円券では、時間的な制約から、肖像部分、分銅部分、輪郭枠部分の間に僅かな間隔が開けられているが、多分肖像はキョッソーネ、他の部分は日本人の凹版彫刻師が分担して彫刻して原版を作り、それを嵌め合せ技法で合成して原版を完成させた可能性が高い。地模様に分銅内だけに用いられ、小さな「五」の連続模様をエルヘート凸版を用いて印刷している。また裏面は全て英文表記で、左には当時偽造が困難とされた白彩紋模様を配置し、その中に「五」と「5」の交差模様を設け、上部には NIPPON GINKO の「N」と「G」の頭文字部分が金囊(宝袋)の部分に印刷されるなど、お金にまつわる図柄が多く採用されている。紙幣用紙には、透かしも文字がはっきりと分かるように、表面左に空白部分を設け、黒透かしを用いて「銀貨五円」の文字が、シャープに抄き入れられているなど、当時としては画期的な兌換銀行券であった。



兌換銀券改造券五円券の
表面



文言が集中した
「分銅模様」



菅原道真の
肖像



北野天満宮の
御神像



五円券の裏面

兌換銀券改造券の第2弾は壹円券で、五円券の原版完成後、僅か3カ月の明治21年12月には原版が完成し、22年5月1日に発行されている。壹円券の肖像には、顎鬚の豊かな武内宿禰の肖像が採用されているが、その容貌は江戸時代から歌舞伎絵や錦絵などに多く登場しており、彫刻者のキョッソーネは、そのイメージを早くから確定していたと思われる、そのモデルとなる人物を探していたと考えられる。肖像人物には、当時東京の神田明神の神官を勤めていた江戸時代の国学者・本居宣長の孫にあたる本居豊顕(1834-1913)をモデルに、凹版彫刻を実施した模様で、本居豊顕自身が当時の一般的な日本人とはやや異なる西洋人に似た端麗な容貌であったため、キョッソーネは比較的容易にビュラン彫刻を行えたと予想される。なお、透かしには黒透かしで「銀貨壹圓」の文字、白黒透かしで桐の葉と花模様が左の空白部分に漉き入れられ、素晴らしい技法を引き立たせている。



兌換銀券改造券壹円券の表裏



武内宿禰の
肖像



モデルとなったと思われる
神田明神の神官・本居豊顕



壹円券に採用された
美しい黒透かし+
白黒透かしの図柄

兌換銀券改造券拾円券は、弓削道鏡の陰謀から天皇家を守った忠臣・和氣清麻呂の肖像を採用しているが、モデルには明治の元勳・参議の木戸孝允の肖像、または上司だった佐田清次彫刻部長を使用したと言われている。キョッソーネは明治20年に印刷局の命令で、大型の銅版画(55×41センチ)を完成させているが、その元になった写真は、明治5年ロンドンで撮影したものであり、既に木戸孝允の肖像彫刻の経験があったためか、明治22年8月には原版を完成させている。この銀行券では、従来にない新しい試みとして、表面周囲の輪郭枠を広く採り、伝説で和氣清麻呂の危機を救ったとされる守護獣の猪の図柄を、上部に6頭、下部に2頭描いている。そのほか、裏面には他券種と同様に全文が英文であるが、用紙の透かしには黒透かしで「銀貨拾円」の文字を抄き入れている。



兌換銀券改造券拾円券の表面



和気清麻呂の肖像



モデルと言われる
木戸孝允と、佐田清次彫刻部長



輪郭枠に描かれた守護獣の猪の図



最高額面の百円券は、明治 24 年 7 月 9 日に原版が完成しており、その完成を待ったキヨッソーネは 17 年間にわたる印刷局の勤務を終え、その功績により勲 3 等瑞宝章を授与され、年金 1000 円を受領して印刷局を去ることとなるが、実際は明治 21 年 1 月に宮内省から委託された明治天皇の御軍装の大型銅版画の製作途中であったため、連日印刷局において作業を続けていた。その結果、明治天皇の銅版画は明治 26 年 12 月に完成を見ている。

百円券は当時としては超高額券で、個人が利用するのではなく、明治 24 年から 26 年までの製造枚数の累計では、僅か約 20 万枚であり、主に会社や銀行間の決済に使われていたと考えられる。肖像人物には、当時大蔵卿や大蔵大臣を務めた松方正義の肖像にそっくりな藤原鎌足の肖像が彫刻されており、キヨッソーネの肖像彫刻も他の券種と比べると、かなり強い意志が現われている厳しい個性豊かな表情となっている。この百円券の表面の輪郭枠が眼鏡の枠に似ていることから、一般に「めがね札」の愛称があるが、表面左部分の地模様には凸版印刷で「銀貨百円」の文字と藤の花が飾られているほかには、特別な図柄もないサイズが縦 13 × 横 21 センチの超大型なのが特徴である。裏面には凸版印刷により英文の標記のほか、左部分にはレリーフ模様による「100」の数字と、唐草模様がその上下に配置されている。一番の特徴は透かしであり、上部に大型の黒透かしで菊章、白透かしで桐章が配置され、その下には篆書体での「日本銀行」の文字が白黒透かしで抄き入れられ、透かし部分も縦横 8 センチと極めて大型である。この透かし模様は、手漉きではあるが、極めてシャープな図柄や文字が抄ける印刷局が開発した独特の「秘訣法」という技法を用いた透かしであり、偽造防止上の最高の決め手となる技法であるため、明治 20 年に勅令の「漉入紙製造取締規則」を制定して、印刷局以外では製造ができない仕組みとなっていた。



兌換銀券改造券百円券の表面



藤原鎌足の肖像



モデルとされた
松方正義大蔵大臣



裏面のレリーフ模様



優れた秘訣法を用いた
白黒透かし模様

キヨッソーネが伝えた当時の最新の製版技術

キヨッソーネが紙幣局、印刷局に伝授したのは紙幣肖像や地模様などの彫刻技術だけではなく、原版の構成や原版複製、それを印刷用の実用版に構成する技術であり、そしてそのために不可欠な各種の機械設備の稼働や使用方法で、原版彫刻の段階で扱う、次のような機械器具を導入した。

バントグラフ（縮小機）：原図を縮小して版面上に縮小彫刻するための機器

筋引きルーラー： 原版上に細密な平行線を彫刻する機器

レリーフ彫刻機： 平行線面に浮彫したような立体感を表現するための機器

彩紋彫刻機： サイズの異なる多くの歯車の組み合わせにより、複雑な彩紋模様を描く機器

また、凹版彫刻などで完成させた部分原版を嵌合させて凹版原版やエルヘート凸版の原版を構成し、その作成した原版や多面版を精緻に複製するための製版技術として、次のような機械設備を導入、その使用方法を伝授したのであった。

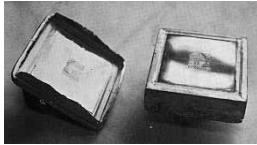
クラッチ製版術： 完成した原版を溶解した鉛面に落下させて、精巧な型版を作製する技法

電胎法（電鋳法）： 電解液の入った電胎槽の中に、完成した原版を吊るし、片方には銅などの電解物質を吊るし、電流を流して電解液内に溶け出た銅イオンを原版面に電着させて精巧な複製版を製造する技術

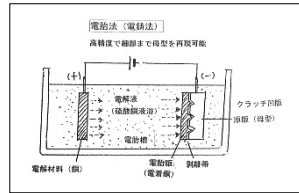
そのほか、キヨッソーネは、腐食エッチング、ドライポイント、メゾチント技法などを、日本人技術者に伝授したのであった。



クラッチ法



クラッチ法による原版の複製鉛版



電胎法の原理図



電胎作業

キヨッソーネの後継者育成は十分だったのか

キヨッソーネは日本人の凹版彫刻技術者の養成という使命も持っていたが、凹版彫刻技術の習得には10年以上の年月がかかるため、直ちにキヨッソーネに取って代わり、肖像彫刻を行う技術者は出現しなかった。キヨッソーネの側近として技術を習得した降矢銀次郎は、元は銅版彫刻師・松田敦朝の弟子であり、ある程度の凹版彫刻技術を持っていたが、肖像彫刻の才能はなかったようであるが、常にキヨッソーネの身近におり、師匠のキヨッソーネが手掛けた凹版彫刻の補刻、嵌合作業などの補助作業、文字彫刻、輪郭枠や唐草模様などを手掛けていたとみられるが、彼の在職中に手掛けた作品は特定されていない。

それに対して、開拓使による遣米研修から帰国し、紙幣寮に採用された大山助一は、キヨッソーネの技術指導の成果もあり、めきめきと上達し、優れた肖像彫刻作品を彫り上げたため、明治18年には印刷局の海外研修生として米国財務省の証券印刷局に派遣された。彼はそれまでキヨッソーネから習ったヨーロッパ式の彫刻技法ではなく、アメリカ式の力強い画線を用いる技法をマスターし、明治23年に帰国した。しかし、彼の優れた力強い画線を用いる技法はキヨッソーネのそれとは相容れず、結局大山助一は印刷局を辞めて再度アメリカに渡り、著名な民間のアメリカン・バンクノート社に就職した。大山の技術は高く評価され、大山は明治33年まで日本には帰らなかった。

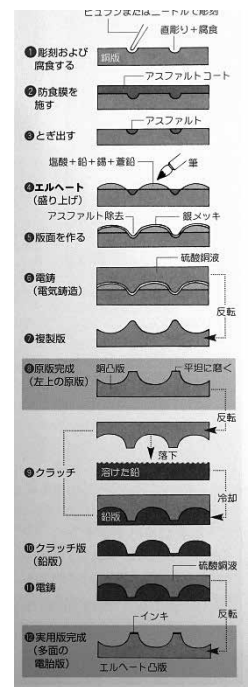
そのほかの彫刻技術者としては、降矢銀次郎のほかに、斎藤知三、細貝為次郎、本田忠保、下村孝之、勝山重実等がおり、彼らは凹版切手や債券類、証紙類などの凹版唐草模様や輪郭枠等は手掛けた模様であるが、重要な銀行券の肖像彫刻などはキヨッソーネが独占的に彫り上げており、出番が無かった模様である。逆説的には、キヨッソーネはその地位を確保するために、あえて肖像彫刻の独占に固執したのかも知れない。その結果、電胎法やクラッチ法、彩紋彫刻法などの複製技術は完全に日本人に継承されたが、肝心の肖像彫刻などを承継した日本人技師たちは、意外と少なかったと言える。キヨッソーネ退職後には、細貝為治郎、大山助一が後継者として、その後の銀行券肖像を彫り上げて行ったのである。



エルヘート凸版を用いた小判切手の版面 (郵便博物館所蔵)



キヨッソーネが在職中に使用した名刺



エルヘート凸版の工程図

キヨッソーネの宮廷画家としての活躍と貢献

キヨッソーネは銀行券などの証券類の凹版彫刻ばかりではなく、優れた画才を生かして、大久保利通、三条実美、木戸孝允、岩倉具視など明治の元勳や著名人たちのコンテ画、銅版画を次々と完成させている。特に画期的なことは、明治天皇の御肖像画であり、「明治天皇記」の記述によると、明治21年1月に徳大寺実則侍従長の依頼により、天皇の御肖像をスケッチし、天皇の御衣裳については宮内省から借用して、ポーズを検討の上、天皇のご肖像の特徴を採り入れ、威厳のある優れた御真影のコンテ画を完成させ、それが明治天皇の御真影となった。また、印刷局退職後には御軍装の大型の銅版画も完成させるなど、宮廷画家、彫刻家として幅広く活躍して存在感を高めたのであった。



内田九一撮影の
明治天皇



明治天皇の御正装
コンテ画

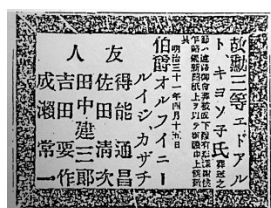


御軍装銅版画



自らポーズをとり御盛装や御軍装の
モデルとなったキヨッソーネ

明治24年に印刷局を退職したキヨッソーネは、大山巖や有栖川宮等の肖像画を描いたほか、彼の退職時に合せて印刷局を離れ、エルハート凸版の技術を生かして新規事業を起こした元印刷局の木村延吉、伊藤貴志、降矢銀次郎などの技術者たちと共に、現在の凸版印刷の元となった会社設立を支援するなど、活動を続けていた。しかし、日本の紙幣印刷事業樹立に大きな貢献を果たしたキヨッソーネは、その後明治30年頃から病状が悪化し、明治31年4月11日に平河町の自宅で逝去し、同年4月14日に葬儀が行われ、その後青山墓地に埋葬されたのであった。



キヨッソーネの葬儀の会葬御礼公告



青山墓地のキヨッソーネの墓

(筆者：紙幣研究家 植村 峻は、一般財団法人印刷朝陽会・調査研究部長)

[参考文献]

- 「印刷局沿革録」明治40年発行 印刷局発行 明治40年
- 「得能良介君伝」池田敬八 印刷局発行 大正10年
- 「大蔵省印刷局百年史」第1巻、第2巻 大蔵省印刷局発行 昭和47年
- 「明治初期来朝 伊太利亜美術家の研究」隈元謙次郎・著 昭和15年
- 「お雇い外国人キヨッソーネ研究」明治美術学会、印刷朝陽会編 中央公論美術出版 1999年
- 「キヨッソーネと近世日本画里帰り展」毎日新聞社 1990年
- 「日本紙幣の父キヨッソーネ再発見」リア・ベレッタ著 印刷朝陽会 2004年
- 「凸版印刷株式会社史」凸版印刷 昭和60年
- 「紙幣肖像の近現代史」植村 峻・著 吉川弘文館 2015年
- 「お雇い外国人エドアルド・キヨッソーネとその時代展」イタリア文化会館 昭和51年
- 「Stampe Dell'Accademia Ligustica di Belle Arti」1992年
- 「Edoardo Chiossone un collezionista erudito nel Giappone Meiji」Donatella Failla 1996



明治3年 旧20円金貨
鑑付 ¥620万



享保大判金 真乗元書
鑑付 ¥415万



慶長小判金 座人印「佐」
鑑付 ¥190万



享保小判金
鑑付 ¥48万



英国 5ギニー・ウィリアム・メアリ
1694年 XF40 ¥215万



英国 パターナフローリン
1848年 PF65 ¥118万

平成最後の特別企画

平成元年プルーフセット



新品
同様

限定 100 個

@¥4,500円

ブース No.
S 3・4

ワタナベコイン

〒453-0841 名古屋市中村区稲葉地町 8-13 TEL.052-411-520

ネットショップで常時 2,000 点以上掲載

ブース No.E7

MDC
MONACO
Monnaies de Collection sarl
NUMISMATIQUE

2019年秋開催 モナコMDCコインオークション
ぜひ、お持ちのコインをご出品ください。

NGC PSE biddr NumisBids

www.mdc.mc



コインオークション
買取・販売・鑑定

27 avenue de la Costa 98000・Monaco Monte-Carlo

電話番号：(00377) 93.25.00.42・ファックス：(00377) 97.77.23.13・Eメール：info@mdc.mc

日本貨幣協会 - 入会のご案内

会長 大場 俊賢 「貨幣」研究・収集の楽しみ

会誌「貨幣」を定期的に刊行。年6回。年会費¥5,000で会員資格が得られます。

「日本貨幣協会」入会の申し込み先及び問い合わせ先

〒243-0413 神奈川県老名市国分寺台1-15-14

事務局 吉田 守 TEL 090-7839-4437

日本貨幣協会の貨幣セミナーのお知らせ

「世界の記念貨幣 ～スポーツコインの歴史と背景～」

当協会の会員で諏訪コインクラブ会長による記念貨幣の歴史と収集の楽しみ方を紹介します。

4月27日(土)PM4~5:30
3階クラウンルームB

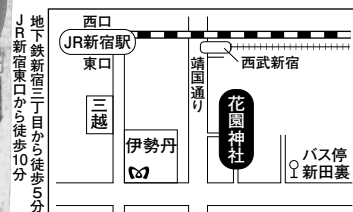
例会々場

毎月第2日曜日午後1時に開催

東京都新宿区新宿5-17-3

花園神社内・花園会館(社務所)

☎ (03) 3209-5265



第 30 回東京国際コイン・コンヴェンション即売品の一部

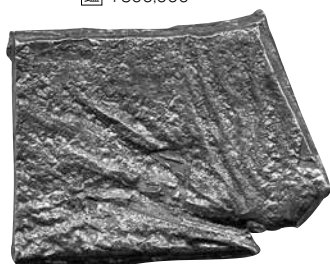


①一円銀貨 明治 20 年大型 未使用
鑑定 ¥300,000

②一円銀貨 明治 20 年小型 未使用
鑑定 ¥350,000

③一円銀貨 明治 30 年 PCGS MS65
¥150,000

④一円銀貨 明治 34 年 PCGS MS65
¥150,000



⑤宝字切銀 33.4g 美品上
鑑定 ¥1,200,000



⑧元禄二朱金 美品上
鑑定 ¥190,000

⑦文政一朱銀 ハネ六 美品
¥88,000

⑥大黒 10 円札 美品 ¥700,000

※45% 縮小図



《今回の特別販売品》

享保小判金 美品 鑑定 480,000 円(2点限り)
天保小判金 美品 鑑定 180,000 円(3点限り)
万延小判金 美品 鑑定 95,000 円(2点限り)

ブース No.
C7~10

セキグチ

T371-0033 群馬県前橋市国領町2-1-8 TEL: 027-232-5789

2019 年第 30 回東京国際コイン・コンヴェンション 当社販売稀少逸品



2018 年
Cu Pattern (銅打)
発行 3 枚



2019 年
Pt500F (プラチナ)
発行 3 枚

2019 年 各発行 3 枚
Cu Pattern (銅打)
50F、500F、1000F

その他新入荷商品
多数取揃えてお待
ちしております。

※スイス現代射撃祭コインのダイ※
50Fr、500Fr 用のダイ (極印) を
上下セットで特別販売致します。
年号・価格は当日発表します。

イギリス 1887 年 £5 MS60 30 万円
イギリス 1887 年 £5 MS61 35 万円
ブルガリア 1912 年 100L リストライク PR66+ 28 万円
イギリス 1887 年 £2 AU58 17 万円

現行貨 50 枚ロール 特別提供品有り
2020 東京五輪 100 円貨 2 種セット
(フェンシング & ボッチャ) 50 枚ロール 未使用
2019 年天皇陛下在位 30 年 500 円貨
50 枚ロール 未使用

ブース No.B1~4

PCGS AUTHORIZED DEALER NGC PMG

収集のご相談、ご質問も承ります。
お気軽にお立ち寄り下さいませ。

We wish the TICC continuing success and
look forward to welcoming you to our booth.

SELL
売 & 買
BUY

株式会社アカデミー商会

450-0002 名古屋市中村区名駅4丁目25-21
石田ビル2階

OPEN 10:00 / CLOSE 18:00 日曜休
TEL.052-583-1144 FAX.052-586-5434
出張多い為、ご来店の際はお電話頂けると幸いです。

祝 第30回東京国際コイン・コンヴェンション



包銀一枚
未開封
丁銀 + 豆板銀
大黒常是



天皇陛下御在位30年記念
1万円金貨

2020年東京オリンピック・
パラリンピック競技大会記念
第一次 1万円金貨



KA000001G

10000

10000

聖徳1万円札 0000001 未使用
※ 90% 縮小図



旧 10 円金貨
明治 4 年
鑑定書付 極美



新一円銀貨 (大型) 明治 8 年鑑定書付 美品



天保小判金
小判お買い上げの方に
手引進呈いたします。



改三分定銀

ブース No.
K1 ~ 3

(株) 駅前コイン
TEL & FAX 03-3256-4384

おかげさまで60年 信用と実績でお客様とつなぐ 切手・古銭・紙幣・テレカ・金券売買

日本貨幣商協同組合加盟店
日本郵便切手商協同組合加盟店
日本チケット商協同組合加盟店



ケネディ・スタンプ・クラブ

〒160-0004 新宿区四谷1-9 新盛ビル3階 TEL.03-3353-6755 FAX.03-3353-6910 <http://www.kennedystamp.jp/>

JR・地下鉄駅から徒歩2分



■ 販売品の一例 ■

ブース No.H1 ~ 4

御来店お待ちしております。



- ・享保大判金 第十三代延乗 極 550 万円
- ・万延大判金 のし目 元書 未 225 万円
- ・万延大判金 のし目 書改 極 158 万円
- ・天保五両判金 極 158 万円
- ・旧 10 円金貨 明治4年 有輪 未 80 万円
- ・旧5円金貨 明治 8 年 極 45 万円

《特別サービス品》

中部国際空港 500 円銀貨 2,800 円
限定 20 個



全世界40個国家と地区から
参加する会社が100以上集まるコインコンベンション
More than 100 companies and dealers from
over 40 countries and regions

2019年8月23-25日 金曜日-日曜日
Fri to Sun

HKCS | 第6回香港国際コインショー
THE 6TH HONG KONG COIN SHOW (HKCS)

香港ザミラホテル 18階 18/F, The Mira Hong Kong

☎ +852 3952 3031 / +852 2117 1191
✉ info@hongkongcoinshow.com
🌐 www.hongkongcoinshow.com

聯合舉辦 Jointly Organised by *Stacks & Bowers* AND PONTIERO **SPINK** 廣銀閣 **首席收藏** SHOUXI.COM
大會贊助商 Sponsored by **NGC** Network Security Corporation **PCGS** **SANFORD WORLD**

日本赤十字社コーナーで世界のコインを配布します
コインで愛の手をつなごう!

—— 世界のコインでチャリティー運動 ——

昨年に続きまして、東京国際コイン・コンベンション会場の日本赤十字コーナーにおいて日本貨幣商協同組合の協力のもと海外旅行者など、様々な皆様から善意の寄付として寄せられた世界のコインをパッケージにして、会場を訪れた皆様に配布し、ご寄付を募ります。

集められた寄付金は全額、日本赤十字社が行う赤十字活動に役立てられます。

コインコレクターのあなたも是非、このコインを通じたチャリティー活動にご参加、ご協力ください。

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

※日本赤十字コーナーでの世界のコインの配布は、28日(日)・29日(月・祝)の2日間のみとさせていただきます。
初日の27日(土)は、コインの配布は行いません。

組合のホームページが新しくなりました!



この度、日本貨幣商協同組合のホームページをリニューアルいたしました。イベント情報や組合加盟店リスト、またコイン収集の為の情報配信など、皆様のお役に立つ情報を沢山配信していきたいと思っております。

日本貨幣商協同組合ホームページ
www.jnda.or.jp





出品受付中！

8月アジアメインセール香港オークション

日時: 2019年8月19-22日・出品締切: 2019年6月14日

3月の香港セールは高額な落札価格は続く。こちらの商品はほんの一例です。
8月のセールは収集家の皆様楽しんで頂きますよう切に願っております。



日本. Yen, Year 8 (1875).
Meiji. PCGS AU-55
Gold Shield.



日本. Trade Dollar,
Year 8 (1875). NGC MS-66.



香港. Dollar, 1866.
Hong Kong Mint. Victoria.
NGC PROOF-62.



中国. Dollar, ND (1923).
PCGS MS-64 Gold Shield.



中国. Jilin Dachibao.
Jilin Province Big Winged
Ingots. Silver 50 Tael Local
Tax Ingot, Year 31
(1905). Guang Xu.
VERY FINE.



中国. Anhwei. 7 Mace
2 Candareens (Dollar),
ND (1897). NGC MS-62.



中国. Copper Fen Pattern,
ND (1910). Vienna Mint.
PCGS SP-64 BN Gold Shield.



中国. 2000 Yuan, 1999.
Panda Series. NGC PROOF-68
ULTRA CAMEO.



中国. State of Chu. "Yuan Jin"
Gold Cube Money, ND
(ca. 475-221 B.C.). Warring
States Period. VERY FINE.



イギリス. 5 Pounds,
1826. PCGS PROOF-62
DEEP CAMEO Gold Shield.



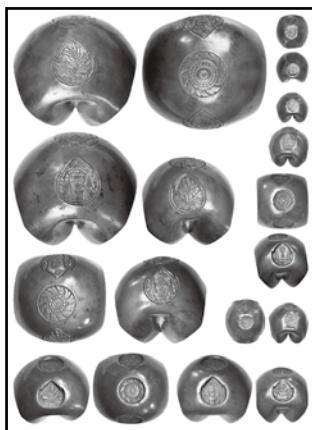
イギリス. 5 Pound,
1911. NGC PROOF-64.



中国. TAIWAN. Bank of Taiwan.
10 Yen, 1901. P-1909s. Specimen.
PMG Very Fine 30 & Choice Very Fine 35.



日本. Occupation of Russia WWII.
50 Kopeks, SB2302. P-M20. Unissued.
PMG About Uncirculated 55 EPQ.



タイ. Bullet Money
Presentation Set
(6 Pieces), CS1242 (1880).
Rama V, P'ra Paramin Maha
Chulalongkorn.

Stack's Bowers
AND PONTERIO

専門、信頼、実績8年間香港のアジ
アメインセールの売り
上げは既に百億円を超え！

ご出品をご希望される方はお気軽に
お問い合わせください。
(香港事務所日本語対応可)

電話: +852.2117.1191

メール: infohk@stacksbowers.com

サイト: www.stacksbowers.com



日本. Bank of Japan.
1000 to 10,000 Yen, ND
(1993-2003). P-100s to 102s.
Specimen. PMG Choice
Extremely Fine 45 EPQ to
Gem Uncirculated 66 EPQ.



イギリス. Trade Dollar,
1935-B. Bombay Mint.
George V. PCGS MS-61
Gold Shield.

80年以上の歴史 | ギネス世界記録を達成 | 伝説を継ぐ

WORLD & ANCIENT COIN AUCTIONS

Recent Highlights from Heritage Auctions



Netherlands East Indies.
Dutch Colony. United East
India Company (VOC) gold
Proof Pattern Ducaton (Rider)
1728 PR64 NGC
Realized \$336,000



LYDIAN KINGDOM. Croesus
(ca. 561-546 BC). AV stater
NGC MS★ 5/5 - 5/5
Realized \$144,000



Great Britain. George III silver
Proof Pattern "Three Graces"
Crown 1817
PR64+ Cameo NGC
Realized \$204,000



"Republic" gold Off-Metal
Trial 5 Francs L'An 10
(1801-02)-A MS62 NGC
Realized \$132,000



Great Britain. Victoria
gold Proof "Una and
the Lion" 5 Pounds
1839 PR62+ Deep
Cameo PCGS
Realized \$264,000



PHOCIS. Delphi. Ca. 338-334
BC. AR stater
NGC AU★ 5/5 - 5/5, Fine Style
Realized \$228,000



Great Britain. Charles II
gold Proof Pattern Crown
1663 PR58 PCGS
Realized \$288,000



Sextus Pompey,
as Imperator (44-36 BC).
AV aureus
NGC Choice AU★ 5/5 -
4/5, Fine Style
Realized \$336,000



Great Britain. George II
gold 5 Guineas 1741/38
MS64★ NGC
Realized \$240,000

*Coins not actual size.

Inquiries: Sam Spiegel

Director, International Numismatics | +1-214-409-1524 | SamS@HA.com

DALLAS | NEW YORK | BEVERLY HILLS | SAN FRANCISCO | CHICAGO | PALM BEACH
LONDON | PARIS | GENEVA | AMSTERDAM | HONG KONG

Always Accepting Quality Consignments in 40 Categories
Immediate Cash Advances Available
1 Million+ Online Bidder-Members

BP 20%; see HA.com. 52701

HERITAGE
AUCTIONS
THE WORLD'S LARGEST
NUMISMATIC AUCTIONEER

BENEFIT FROM THE EXPERIENCE OF A MARKET LEADER !

Emporium Hamburg is one of the world's leading coin trading companies

Established in 1972 as a one-man business, Emporium Hamburg has 100 employees today and is one of the leading coin trading companies in the international market. With 50 years of experience, you can capitalize on our knowledge and service when buying and selling your "treasures".

Our product range is satisfying nearly everything:

- From Ancient Coins to all modern numismatic issues
- Investment coins / Bullion goods
- Highly exclusive special products like our renowned and unique "Puzzle Coins" as well as the famous Somalian „African Wildlife“-program



Selling coins to Emporium Hamburg:

We're always looking to buy interesting items. If you are intending to sell your collection, investment coins or individual rare pieces, please contact our experts for a free, confidential and non-binding appraisal.



CONTACT



Philipp Becker
Head of Modern Numismatics
philipp.becker@emporium-hamburg.com



Achim Becker
Founder



Dr. Josef Fischer
Classical Numismatics/Senior Numismatist
fischer@emporium-hamburg.com

Emporium Hamburg · Stoertebeker-Haus · Suederstrasse 288 · 20537 Hamburg · Germany

Phone 040/257 99-110 · Fax 040/257 99-100

E-Mail: gh@emporium-hamburg.com · www.emporium-hamburg.com



①

【①, ⑥~⑩は縮小図】



⑪



⑨ ⑩



⑥



⑦



⑧










② ③ ④ ⑤

ブース No.H7 ~ 10

① 万延大判金 たがね打	鑑	極	350 万
② 慶長一分判金 逆打 ひびき原品	鑑	極	60 万
③ 元禄一分判金 逆打 大型	鑑	極	48 万
④ 元禄二朱判金 逆打	鑑	極	93 万
⑤ 享保一分判金 逆打 ひびき原品 無刻印	鑑	極	43 万
⑥ 新 20 円金貨 昭 7 (財)		未	530 万
⑦ 新 5 円金貨 昭 5 (財)		未	330 万
⑧ 旧 5 円金貨 明 8 中期 NGC MS66			200 万
⑨ 慶長丁銀 十二面打 前期 150.0g	鑑 美 / 極		220 万
⑩ 元禄丁銀 超大型 222.7g	鑑 美		150 万
⑪ 正徳小判金 背堺長	鑑 美 / 極		303 万

大切な収集品・重複品の処分をご検討の際は、是非弊社にご相談ください。

(株)新橋スタンプ商会

本社 〒105-0004 東京都港区新橋2-5-6 大村ビル3階

●営業時間/10時~18時(水10時~17時)■休業日/日曜・祝日

☎0120-478-548

札幌本部 ☎0120-936-136

〒054-0804 北海道札幌市中央区南4条西6丁目 寺田ビル1F (東向)

営業時間/10時~18時(土日祝~18時)■休業日/第2・3日曜日

Twitter@y43a23u23

札幌店 ☎0120-590-117

〒050-0063 北海道札幌市中央区南3条西2丁目 KT3条ビル1F

営業時間/10時~18時(土日祝~18時)■休業日/第2・3日曜日

Twitter@shinbashistamp



世界と日本の金銀貨

高価 買入中!

コレクションは全国出張可!

査定後の売却方法は以下の3つ!

1. 当社による買取
2. ご希望金額による委託販売
3. オークションによる売却

査定は簡単! 店頭へのご来店、郵送でのお申し込み、メールなどでの写真査定も承っています。

メールでの査定はこちら

satei@coins.co.jp

※写真査定の場合は大まかな査定となり、正式な金額の提示は現品確認後となる場合があります。



世界 100 社以上のオークション代行も承っております



全世界で 100 を超えるオークション会社、セール数は年間 400 以上。その 90% 以上と取引があり世界の適正価格に強い当社にお任せ下さい。
※代行者手数料はオークションによって異なりますのでご相談ください。

グレーディングのご用命は日本一の実績を誇る当社にお任せ下さい!



お手持ちの、世界で一枚だけの「手のひらサイズの世界遺産」に、「グレーディングという付加価値」をお付けになりませんか?

— グレーディングキャンペーン中! —

1枚 ¥3,000~ (消費税込) ※6/20 当社必着

詳細は当社 Web サイト、月刊『収集』3月号等を御覧下さい。

TICC 会場では係の者にお尋ね下さい。



JR 浜松駅北口 徒歩3分
都営地下鉄大門駅 徒歩2分

(株) ワールドコインズ・ジャパン WORLD COINS JAPAN

〒105-0013 東京都港区浜松町 2F, 1-15-5, Hamamatsu-cho
1-15-5 コープ浜松町2階 Minato-ku, Tokyo, 105-0013
http://www.coins.co.jp JAPAN

責任者 石井栄一・克之助
TEL 03-5777-0351 FAX 03-5777-0352 e-mail info@coins.co.jp
営業時間 月~土 11:30~18:00 (日曜定休)

月・火・水曜日は事前にご予約頂いた方のみに限らせていただきますので、ご了承下さい。

ブースNo.C1~5



オークション・ワールド 出品募集中!

第 17 回オークション

2019年 7月20日(土) & 21日(日) 予定

※出品締切予定: 5月2日 (お早めにお申込み下さい!)

第 18 回オークション

2019年 10月19日(土) & 20日(日) 予定

※出品締切予定: 8月2日 予定

祝 第30回東京国際コイン・コンヴェンション



(株)銀座コイン 会長
竹内 俊夫

コインの展示即売・買取
株式会社 **銀座コイン**

GINZA COINS CO.

人気TV番組
「開運なんでも鑑定団」
出演中!

よりよい品を 特別ご奉仕!

コインの専門店・銀座コインは江戸時代に造幣局があった銀座でコインの売買一筋に50年。古今東西のたくさんのお金を展示販売している楽しいお店です。お手持ちの品を鑑定・評価し、ご希望の場合は買取も致します。ご来店をお待ち致しております。

書籍紹介

著者 竹内 俊夫
「お宝貨幣なんでも読本」
好評発売中!



TICC 30回 記念特別販売

※新20円金貨 大正6年 PCGS(MS65) 28万円
先着3名様

※米 American Eagle 50ドル金貨
NGC(MS70・PF70UC) 年号各種 18万円～

※メキシコ 8R・1P銀貨
PCGS 年号・状態各種 特別価格

TICCではブースNo.G1～4
銀座コインへお越し下さい。

Tel 03-3573-1960

〒104-0061 東京都中央区銀座5-1 銀座ファイブ1F FAX.03-3289-1860
ホームページ: <http://www.ginzacoins.co.jp> 電子メールアドレス: ginza-co@ginzacoins.co.jp

出品
受付中

第31回 銀座コインオークション

●2019年11月23日(土・祝) ●東京・帝国ホテル

「銀座コインオークション」は一定の手数料で、お手持ちのコレクションを公正にご処分いただける場所です。国内外の貨幣すべてを対象としております。ご出品をご希望される方はお気軽にご相談下さい。



第49回 日本コインオークション フロア・ライブオークション

◆開催日：2019年5月19日(日) ◆場所：品川プリンスホテル メインタワー12階「シルバー」

E-mail : info@ncanet.co.jp / URL : www.ncanet.co.jp



①フランス 100フラン金貨 1889(A)
パリ万国博覧会記念 100枚のみ発行
PCGS PR62-PF AU/UNC



②フランス 5フラン銀貨 1816(A)
1816年のプルーフ貨は珍品
ファルークコレクション Toned PF UNC



③イタリア 100リル試鑄金貨 1923(R)
ファシスト政権1周年記念 PROVA銘入
NGC PF62 MATTE-Matte PF AU/UNC



④イタリア 5リル銀貨 1914(R)
カアドリガ 大変人気の銀貨
FDC



⑤イギリス 5ポンド金貨 1839
NGC PROOF DETAILS OBV REPAIRED
僅かな修正有だが傷が少ない非常に良い状態



⑥イギリス クラウン銀貨 1839
NGC PF62 CAMEO
Toned PF EF+/UNC



⑦神聖ローマ帝国 10ダカット金貨 1651
フェルディナンド3世 ウィーン鑄
NGC AU58+良い状態-EF



⑧中国 清朝 大清金幣 一両金貨
光緒丙午年造(1906) プレインエッジ
PCGS SP62-UNC



⑨日本 万延大判金 たがね打 吉安大 元書
万延元年~文久2年(1860-1862)
未使用品

第49回 日本コインオークションカタログ

1部2,000円 (オールカラー写真)

部数に限りがありますので、お早目にお求めください。

2019年12月開催予定 記念すべき第50回出品物募集中!!

2019年8月31日(土)到着品まで受付!! (予定ロット数に到達次第、受付を締切する場合もあります。)



株式会社 **ダルマ**

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-32 レアール高輪401
Tel : 03-3447-5567 Fax : 03-3449-3344
E-mail : info@darumacoins.co.jp
URL : www.darumacoins.co.jp



東京国際コイン・コンヴェンション 公式

泰星オークション 2019

2019年4月28日(日)

10:00~18:00 (予定)

ロイヤルパークホテル 4階(瑠璃)



英国 ジョージ4世像 5ポンド金貨
1826年 KM702
PCGS PR63+ DCAM



日本 旧10円金貨
明治10年(1877年) ブルーフ
JNDA-近2 NGC PF64★CAMEO



中国 パンダ図
1000元(12オンス) 金貨
1984年 KM92 ブルーフ



英国 ヴィクトリア女王若き肖像<ウナとライオン>
5ポンド金貨 1839年 KM742
PCGS PR62+DCAM

下見のご案内

泰星コイン 4月12日(金)~4月25日(木)10:00~16:00

下見をご希望の方はあらかじめご連絡の上、ご来店ください。

泰星コイン本社は土・日・祝日休業です。

下見や入札など詳細はお電話、Eメールでご連絡いただくか、弊社HPにて随時更新される情報をご確認ください。オンラインによる事前入札も可能です。

オークション
前日及び
当日は…
ロイヤルパークホテル4階(瑠璃)
4月27日(土) 10:00~18:00
4月28日(日) 9:00~14:00

オークション会場ホテルで行われる下見は、大変混雑されることが予想されます。十分な下見時間をご提供できない可能性がありますので泰星コイン本社の事前下見をお勧めいたします。

これらの商品はほんの一例です。

日本銭・外国銭・中国銭共に多数出品しております。

泰星オークション
TAISEI AUCTION

オークション
専用
フリー
ダイヤル



Eメール: auction@taiseicoins.com

0120-94-8650

www.taiseicoins.co.jp/auction/

営業日時: 平日(祝日除く) 9:00~17:30

主催: 泰星コイン株式会社
TAISEI COINS CORPORATION

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2丁目23番2号 UBQ東池袋ビル1F
TEL 03-3590-8233 FAX 03-3590-7088
www.taiseicoins.co.jp



auctions.taiseicoins.com



THE RENAISSANCE AGE



AUTHOR ELOÍSA BYRNE
EUROPA SERIES € AGES OF EUROPE
COMMEMORATIVE COLLECTOR COIN
GOLD PROOF • SILVER PROOF

CASA DA MOEDA

INCM

IMPRESA NACIONAL
CASA DA MOEDA, S.A.
P. 151-153-155-157
P. 151-153-155-157
MOEDA.ASSOCIADOS@INCM.PT
WWW.INCM.PT





Editions V. Gadoury
Depuis 1973

新ガイドブック
シャルル3世からアルベール2世
までの全金貨



希少コインのオークション



contact@gadoury.com

www.gadoury.com

57, rue Grimaldi 98000 MONACO Tél : 00377 93 25 12 96

中国人民银行 发行
Issued by the People's Bank of China



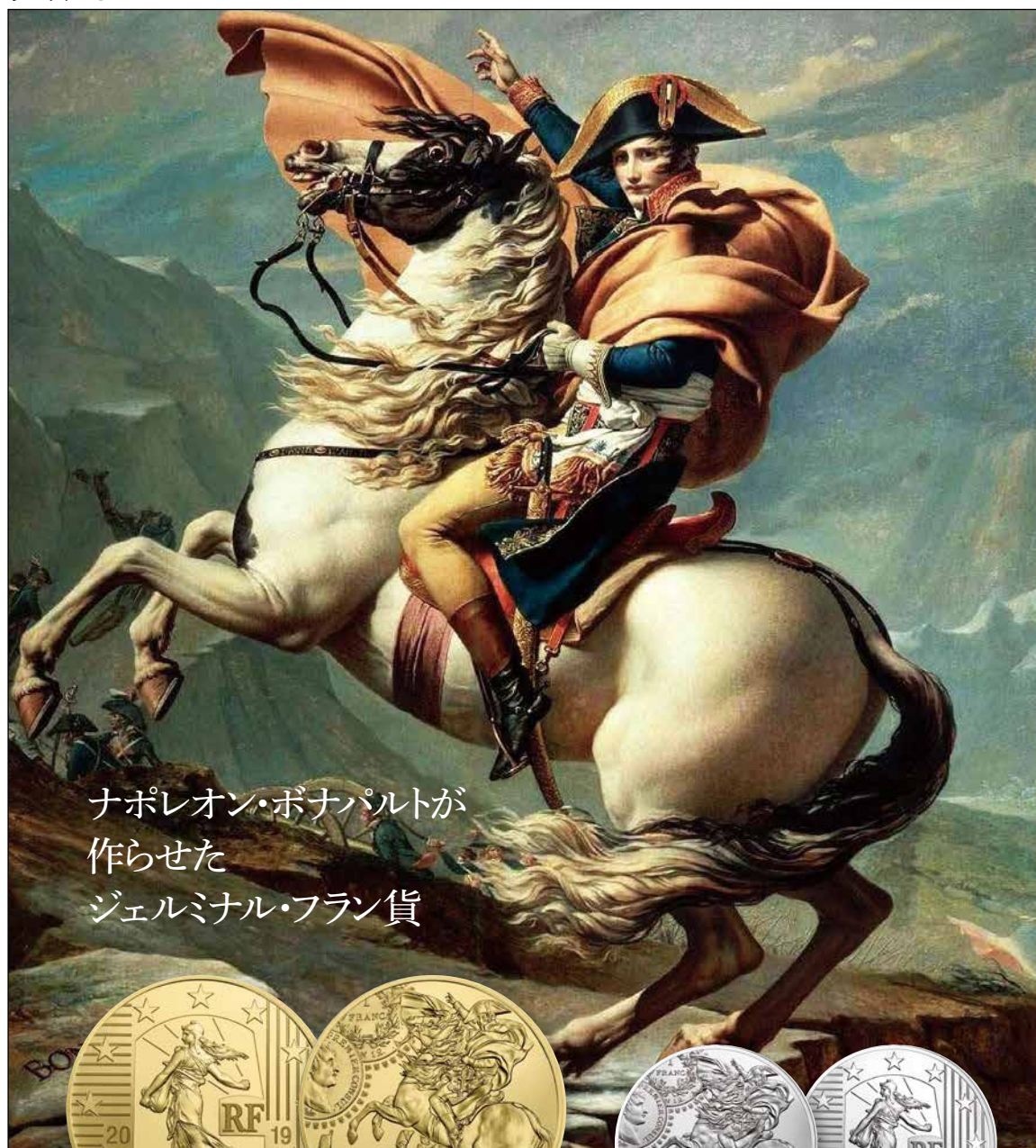
中国金币总公司 总经销
Solely distributed by China Gold Coin Incorporation

淬炼金银 传承文化
Refine the Bullion Inherit the Culture



中國長城硬幣投資有限公司 海外 SOLE OVERSEAS
China Great Wall Coins Investments Ltd. 總經銷 DISTRIBUTOR

香港皇后大道中183號中環大廈41字樓4101室
Unit 4101, 41/F., Cosco Tower, 183 Queen's Road Central, Hong Kong
電話 Tel: (852) 2543 3199 傳真 Fax: (852) 2854 0039
網址 Website: www.chinacoin.com.hk
電郵 Email: info@gwcoin.imsbiz.com.hk



ナポレオン・ボナパルトが
作らせた
ジェルミナル・フラン貨



フランス 2019年

種を蒔く人シリーズ

